

げんてん

(日本医科大学第一内科学教室・同窓会年報)

第十八号

(2006年度)

付 日本医科大学第一内科学教室業績集
(2006年4月～2007年3月)

付 日本医科大学第一内科同窓会名簿

日本医科大学第一内科学教室・同窓会発行

目 次

I. 就任挨拶		
「主任教授に就任して」	水 野 杏 一	1
「再生医療科部長に就任して」	宮 本 正 章	2
「第一内科講師昇任のご挨拶」	平 山 悦 之	4
「医局長挨拶」	安 武 正 弘	5
II. 受勲・学会賞など		
瑞宝小綬章	奥 村 英 正	6
東京都ベンチャー技術大賞	宮 本 正 章	8
日本心電学会学術奨励賞 (H18)	淀 川 顕 司	10
日本心電学会学術奨励賞 (H19)	堀 江 格	11
日本内視鏡学会佐藤賞	山 本 真 功	12
日本循環器学会関東甲信越地方会 YIA 賞	野 崎 文 華	13
III. 海外留学者の帰国報告		
セントルイス大学に留学して	佐 野 純 子	14
NIH 留学記	高 橋 啓	16
IV. 近況報告		
“げんてん埼玉” 発足	福 田 純	18
榊原記念病院での新たな Cardiology のスタート	高 山 守 正	19
新医師臨床研修制度指導医へのチャレンジ	伊 藤 恵 子	20
いま、思うこと～鶴見大学歯学部内科に赴任して～	高 木 郁 代	22
V. 新入医局員（専修医）の抱負		23
VI. 第一内科学教室、同窓会（げんてん会）記録		25
VII. 医局員勤務表		27
VIII. CC・CPC		29
IX. 学位取得者		30
X. 2006 年度研究業績		31
X I. 同窓会会員名簿		61
X II. 現役医員名簿		74
X III. 編集後記		80

主任教授に就任して

水野 杏一

内科学の主任教授としての考えをまとめてみました。

我々医療人は社会に貢献する職務を持った人々の集団である。その期待や対価が多ければ多い程、社会的弱者である患者さんに対し思いをかけなければならない。病院とはその様なことを実践する場であろう。主任教授の就任にあたり、本年 4 月に以下の 3 つの事を行なうと約束した。

- 1) 各医局員が持つ夢、希望、志を叶える事。その環境を作る。
- 2) 医学者、医療者の育成、多くの教授（特に他大学）、院長等の指導者の輩出。
- 3) 日本一の内科学講座を作る。

これらの事を、以下詳述したいと思います。

1) 医局員が持つ夢、希望はそれぞれ異なるが、例えば国外留学は多くの医局員が持っている希望の一つであろう。留学に関しては、積極的に医局員に推奨したい。来年 3 人が留学予定である。若い人達に望む事は自分で応募し、新しい施設を開拓して欲しい。留学することにより、スタッフが減り医局の業務が増え多忙になるかも知れないが、将来の彼等のため残った医局員はみんな耐えるし、すでに留学した先輩は彼等に温かい手を差し伸べて欲しいと考えている。

また、学会等の賞をもらうことは本人に励みになる。今年は多くの医師が夢を獲た。これらの受賞者は本人の努力もあるが、彼等の上司の指導の賜物とも思われる。指導した上司の方々に本当に感謝したい。本内科学教室のレベルの高さを物語っており、今までの主任教授および医局員が脈々と築いてきた遺産の賜である。

客員教授等について今、各付属病院以外の病院等で多くの医局員や先輩、後輩が一生懸命働いており、その方々に資格が満たすなら、客員教授等の肩書きを取得して頂こうと思っている。今まで医局に尽くし、社会に尽くしているのだから当然の対価であろう。

2) 若手の育成であるが、教育は時間がかかるので、報告することは少ないが、医局員にお願いする事として、他大学教授等の応募を心に秘めておいて欲しいし、積極的に応募を考え、その時が来るまで、実力を貯えて欲しい。もしかしたら明日、そのようなチャンスがくるかも知れない。

3) 日本一の内科学講座、これは夢かも知れないが、その夢に向かって一歩進まなければ前に進めない。各々がその気持ちになれば、いつかは到達できるであろう。日本一になる分野は大学が行うべき教育、研究、診療どの分野でも良い。清野教授は一昨年教育の CEO を取ってくれた。日本医大にとっては大変名誉なことであり、それに続くも良い。

研究するなら、世界に通用する研究を行う。京都大学山中教授の様に皮膚から万能細胞を作る様な世に役立つ研究をしよう。現在のところ我々は臨床研究が多いので、新しい疾患概念を作る、新しい診断や治療法を開発する、それらを応用する等今までの概念を全く変える様な研究を行い、その結果として、数十年著名な教科書に引用される研究を行おう。しかし、そこに到達するには、骨の折れる、泥臭い研究を一から開始しなくてはならないし、努力した仕事は、それなりの学会発表や雑誌に投稿すべきで、学会は循環器なら AHA、ACC、雑誌なら New England Journal, Medicine, JAMA, Lancet, また専門誌なら Circulation, , Hepatology, Diabetology 等に投稿して欲しい、と思っています。

来年の日本循環器学会のシンポジウムに第一内科より 5 題発表予定であるが、来年はこれ以上の発表を希望したいと考えています。大切なのは学会で発表したものは理路整然とした考えを学ぶ為、必ず論文にして欲しい。若い医局員はまず、症例報告から始めましょう。症例報告はいかに患者さんを深く診察しているかを問われるものだし、願はくは学会発表時に論文になっていなければならないと考えています。また、自ら学ぶ姿勢と考える習慣を身につけ、深い洞察力と探究心を養って下さい。患者さんには最良の医療を提供し、単なるマニュアル化した高度の技術者としてではなく、品格ある心温まる医師となり、人間としての素養を身につけて欲しいと願っています。

来年より、千駄木の付属病院も取り壊し、新しい病院になります。このような、日本医科大にとって歴史的な変革の時代を向かえ、第一内科も一人一人世界に躍動して行きましょう。

再生医療科部長に就任して

宮本 正章

平成 19 年 5 月 1 日より日本医科大学理事会の承認を受けて、付属病院に新診療部門として「再生医療科」が設置され、初代部長に就任致しました。昨今の標榜科名の改組に伴い再生医療の名を冠した臨床科は散見されますが、現在、純粋に臨床部門として「再生医療科」のみを標榜している病院は当付属病院だけだと思います（平成 19 年 10 月 1 日付け日本経済新聞朝刊「ここまで来た再生医療」掲載）。御英断頂いた理事会、付属病院の先生方を初めとして、旧第 1 内科の皆様方より頂戴した御支援、御協力に感謝すると共に今後の飛躍を期して御報告致したいと思います。目的・特徴としては、再生医療、組織工学、遺伝子医療等の分野における基礎研究を臨床医学に応用するトランスレーショナル・リサーチを実現すべく、手術室内に新設なったセルプロセッシング・センター(CPC)を活用しつつ、付属病院倫理委員会に御承認頂いた先端医療に関する臨床研究、多施設共同研究、治験さらに厚生労働省より先進医療に承認された新しい治療法を臨床各分野で実施し、さらなる安全性・有効性を実証していき、今まで限界とされていた各種難治性疾患の治療レベルの向上にあります。また、当院はオーダー・メイド医療推進医療機関として高い評価を得ており、TLO センターも充実し、産学連携研究にも実績を残しておりますが、これらにも少しでも貢献していきたいと思っております。

現在実施中の課題としては、

- (1) 治療抵抗性の末梢動脈疾患(PAD)、膠原病・アレルギー疾患 に対する自己骨髄幹細胞筋肉内投与による血管新生療法
- (2) 自己骨髄幹細胞浸透人工真皮による組織再生法
- (3) 治性慢性冠動脈疾患に対する自己骨髄幹細胞による心臓血管新生療法
- (4) DDS(Drug Delivery System)徐放化増殖因子ハイドロゲルによる血管新生療法
- (5) マゴットセラピー（医療用無菌ウジ療法）

を臨床応用しており、各々有効性を確認しております。これらの課題は、厚生労働省によりすでに先進医療に承認された課題、先進医療に申請するも保留中である課題、臨床研究として単一因子のみの安全性評価・有効性評価として Phase I,II study を実施中の課題、新治療法として安全性・有効性評価、メカニズム解析を実施中の課題と、それぞれの治療法により実施スタンスを使い分けているという状況があります。このような状況下で、治療抵抗性末梢動脈疾患(PAD)治療成績のブレイクスルーを求めて、マゴットセラピー、高気圧酸素療法(HBO)、自己骨髄幹細胞筋肉内投与による血管新生療法を組み合わせた先進併用療法を発表し、平成 19 年 11 月 3 日横浜市内で開催された第 42 回日本高気圧環境・潜水医学会学術総会で最優秀賞を受賞致しました。

今後の実施予定課題として、昨年 7 月より幹細胞を使用した臨床研究に関しては、厚生労働省が基準を設け、「ヒト幹細胞臨床研究」審査委員会での審議を受け、妥当と判断された課題のみ臨床実施することが望ましいとされるようになりました。この基準は、ハード面、ソフト面共に厳しく、まず、幹細胞の調整には GMP(Good Manifest Practice)に準拠した CPC(Cell Processing Center：細胞調整センター)が必要であり、さらにその管理マニュアル、有害事象に対する補償体制等の徹底も要求され、かなりハードルの高いものとなっております。このため今後当院でも再生医療に限らず、細胞治療、遺伝子治療、蛋白治療といった先端医療推進には CPC が必須であり、手術室内に GMP にマッチングした CPC を開設して頂きました。この細胞調整センターは、本学のアクションプラン 21 においても組み込まれております。

(6) 自己骨髄幹細胞点滴療法による非代償性肝硬変治療：現在までの実績を基盤として消化器病領域にも適応を拡大する予定です。現在我々が使用している骨髄単核球層には、肝芽細胞も存在することが確認されており、末梢静脈より点滴にて全身投与された骨髄幹細胞が肝臓の繊維組織を溶かし、肝細胞を新しく作り出すと考えられており、山口大学消化器内科の臨床研究では、投与後4週間で肝繊維化の改善と Child-Pugh Score の改善が報告されています。すでに本課題は、平成19年7月6日付けで付属病院倫理委員会に御承認頂き、現在厚生労働省「ヒト幹細胞臨床研究」専門家委員会に申請中です。しかし、前述した如くハード面、ソフト面でのハードルは高く、専門家委員会事務局の質問書に回答の上、厚生労働省に再提出する予定です。

(7) 出力衝撃波(shock wave)による血管新生療法：すでに泌尿器科領域で結石治療に臨床応用されている衝撃波治療を低出力で血管新生に応用する新規血管新生療法を付属病院倫理委員会承認後開始する予定です。すでにイスラエルよりの輸入器械のデモも終了し、倫理委員会申請準備中ではありますが、わが国では未だ PAD に対して臨床応用はほとんどされていません。

(8) DDS 徐放化 b-FGF ハイドロゲルによる血管新生療法適応拡大：自己骨髄幹細胞移植による血管新生療法と同様に難治性膠原病・アレルギー疾患に適応拡大を倫理委員会に申請準備中です。

(9) 自家培養表皮による難治性創傷治療：名古屋大学口腔外科上田実教授との共同研究として2年前に実施する予定でしたが、改正薬事法によりアウトソーシングは薬事法違反という見解を厚生労働省が打ち出し、休止しておりました。しかし、近々上田教授らのバイオベンチャー企業である J-TEC が厚生労働省より自家培養表皮の販売承認を受ける予定であり、承認後再開する予定です。

(10) マゴットセラピーの外来治療：マゴットをティーバッグ状の高分子不織布の袋にマゴットを入れて静置するだけで治療可能な「マゴットパック」が使用可能となったため、適応選択の上、これを利用した外来治療を倫理委員会に申請準備中です。

このように「再生医療科」が設置されたのは、旧第1内科の先生方をはじめとして当院、他大学も含めた多くの先生方の御協力、さらにパラメディカル、事務職員の皆様のお陰であり、心より感謝致しております。この場をお借り致しまして心より御礼申し上げます。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。なお、より詳細に付きましては、次号の日本医科大学同窓会報（第344号、平成20年1月1日）に掲載されますのでよろしくお願い申し上げます。

連絡先：〒113-8602 文京区千駄木 1-1-5

日本医科大学付属病院再生医療科

TEL: 03-3822-2131

FAX: 03-5685-0987

E-mail : miyamoto-m@nms.ac.jp

第一内科講師昇任のご挨拶

平山 悦之（昭和 60 年入局）

この度、水野杏一教授のご推薦と教授会、理事会のご承認を賜り、平成 19 年 10 月 1 日より器官機能病態内科学（第一内科）講師を拝命いたしました。入局以来、本当に多くの良き師、先輩、友人、後輩に恵まれ楽しく充実した医局生活を送ることができ、また、今日このような職を賜りましたこと、身の引き締まる思いです。多くの先生方に心より御礼申し上げます。

入局した当時は何もわからず、何もできず奥村英正先生、早川弘一先生、荒牧琢己先生の回診、抄読会、CC をこなすのに精一杯。そんな時、オーペンの新 博次先生にひろっていただき、不整脈班に入り心電図の魅力に取りつかれました。東京医科歯科大学難治疾患研究所循環器部門さらに米国エモリー大学細胞生理学教室への留学の機会を頂戴し、心電図→活動電位→イオンチャネルの解析へと対象をよりミクロの世界へと広く深く、勉強することができました。これらの仕事を通じて学んだことは、神のみぞ知る不思議な世界、そのほんの一部をいくつかのデータから自由に発想することの楽しさ、そしてそれを検証する過程のワクワク感、さらに仕事としてまとめ上げる達成感、充実感でした。これをぜひ後輩の皆さんに伝えたいと考えます。

生命の誕生から死に至るまで細胞の生体化学現象を支配しているのは Ca^{2+} です。そしてこの Ca^{2+} 調節にスポットを当て不整脈の発生機序、特に重症不整脈の直前に出現する心電図 T 波交代現象（T wave alternans）の発生機序を一貫して多くの先生方と共に研究してまいりました。そしてこの T wave alternans が心筋細胞内の筋小胞体にある Ca^{2+} ポンプの障害で起こることを見出しました。この事実に基づき Ca^{2+} ポンプの障害すなわち細胞内 Ca^{2+} 調節機構の変調を従来の心電図解析に代わる、より精度の高い方法で検出し、重症不整脈発生の予知に役立てられないか現在、検討を加えております。

これまで狭い専門領域にこだわることなく肝臓病、心臓病、糖尿病など様々な疾患についても興味を持って診療できました。これも、第一内科にそれぞれの素晴らしい専門家がいらっしやり、これら先生方の話を伺い、その背中を見てすごすことができたお蔭様です。私も後輩の皆さんに少しでも良い背中をお見せできるよう努力いたします。

最後になりましたが 2007 年 6 月末をもちまして医局長は安武正弘先生にバトンタッチいたしました。皆さんにご迷惑をおかけしながらも何とかこの仕事を無事に終えられましたのも、高野照夫先生の絶大なるご指導、ご鞭撻そして本当に多くの先生方、秘書の皆さんのお蔭様です。心より御礼申し上げます。微力ではありますが、さらに現在の自分のテーマを掘り下げ、少しでも医局に貢献できますよう、診療、教育、研究に邁進、努力する所存です。どうぞ今後ともよろしく願いいたします。

医局長挨拶

安武正弘

平成 19 年 7 月より、医局長に就任致しました昭和 59 年卒の安武です。先輩方からは、「今頃何故君なの？」とご指摘を受け、同級生や後輩からは「予想外でした...」などと驚かれました。この挨拶文を書いている私自身、この予想外の展開を真摯に受け止めながら、医局長として精進の日々を送っております。“天命を知る” 年齢に達しようとしておりますが、精一杯努力する所存ですので、宜しくお願い申し上げます。

私の役割 3 つです。①高野照夫先生から水野杏一先生への円滑な“バトンタッチ”の一助となること、②医局員を沢山入局させて、できるだけ早期に若手に医局長を引き継いでもらうこと、③7 年間も医局長を務めた、平山悦之君を早く楽にしてあげること。

①については順調です。水野教授も千駄木付属病院に慣れてこられましたし、医局員からは新たな体制で頑張ろうという意欲が感じられます。②現在、付属四病院、各派遣病院の勤務状況はぎりぎりの状態です。私のような病棟フリーの人材から医局長を選ばざるをえなかったのが実情だと理解しています。医局員の動的平衡を保つには、1 人でも多くの医局員を確保することが重要です。医局説明会やホームページの充実も大切ですが、学生や研修医を一人一人丁寧に指導し、第一内科の良さを伝えていくことが最も効果的だと確信しています。関係者の皆様に一層の努力をお願い申し上げます。③平山先生は私のお陰で医局長の任から解放されましたが、私のせいで副医局長に留まりました。本当に、申し訳ないと思っております。この半年で第一内科の医局長がいかに大変か充分身に沁みました。平山先生の 7 年ものご尽力に心より敬意を払うとともに、1 日も早く、医局長業務から（私も一緒に）卒業させてあげたいと祈念しております。

6 月 30 日のげんてん会総会でも申し上げました通り、私はあくまで“つなぎの医局長”であり、1 日も早く若手から“真の医局長”を選んでいただけるような、余裕のある医局運営が復元することを願っております。“人は力”，一丸となって、第一内科の仲間を増やしましょう。

OB・OG の先生方へ：第一内科のホームページを是非ご覧いただき、ご意見をお寄せ下さい。医局員のページでは、勤務状況や各病院での様子を定期的に更新しております。

URL： <http://www.nms.ac.jp/nms/naika1/index.html>

医局員のページへの ID： ichinai

パスワード： genten （何れも、アルファベット半角小文字入力）

叙勲の思い出

奥村 英正

この度、平成19年の秋の叙勲の栄に浴しました。大正15年生まれで、戦前の天皇陛下万歳の教育を受けた人間としては、感無量です。

内定は2ヶ月前にありましたが、正式決定は、11月3日の新聞に公表される前日に来たので、それまでは、万が一の事を考えて、秘密にしておきました。

今度の叙勲は、荒牧名誉教授の協力のお陰でした。資料を提供しましたが、履歴書から、功績調書まで、ほとんど書いてくれました。それに、庶務課の鎌田さんが、先方との取り次ぎをしてくれ、更に、文化学園理事長で、日本私立大学協会理事長の大沼さんの推薦も依頼してくれました。

1) 伝達式

平成19年11月8日午前11時15分より、国立劇場の大劇場で、伝達式が行われました。1000人は入る劇場の座席が、叙勲者と同伴者で、9割はうまりました。文部科学大臣の式辞があり、ついで代表が大臣から、勲章と賞状を頂戴しました。その後、各個人にそれらが渡されました。

これで、帰っても良いのですが、誰一人帰る人はなく、みな軽食を食べて、宮中へのバスを待ちました。知らなかったのですが、叙勲は七十才以上にならないと、下されないのだそうです。したがって、功績のみでなく、長生きする事が、一つの条件です。

叙勲制度の改善が行われたとの事ですが、今でも官尊民卑の影響が残り、私のような80才をこえていた人は、数えるほどでした。殆どは70才前半で、資格が来ると、国家公務員、警察、消防関係などの人は、すぐ叙勲申請をだすようです。

配偶者同伴で参列できるので、殆どの叙勲者は夫婦同伴でした。驚いたのは、奥さんが肢体障害があり、車椅子を叙勲者が手押しして、宮中まで行きました。これは、最大の奥さん孝行をした訳です。

女性は色留め袖で、男性はモーニングです。したがって女性は、着付けが必要になり、その為に、前夜近くのホテルに宿泊し、朝着付けしてもらう必要があります。我々も、帝国ホテルに宿泊して、翌朝8時に着付けしてもらい、10時半に国立劇場へ行きました。東京の人は一泊二日で済みますが、地方の人は二泊三日になるそうです。

2) 拝謁

国立劇場から、1時30分約30台近い数のバスで宮中へ行きました。宮内庁の職員が整理にあたり、列を作って、宮殿へ上りました。春秋の間で、叙勲者は前、配偶者は後ろに列を作って、陛下のお出ましを待ちました。

2時過ぎに、陛下が入られ、壇上に上がり、お言葉を頂戴しました。それから壇を降りられ、テレビの園遊会の時のように、列の前を歩かれながら会釈され、2乃至3メートルの近くで、陛下のお顔を拝顔できました。

終わって、宮殿の前で二十人位の単位で、集合写真を写してくれました。順番はアイウエオ順でしたので、私は早く終わりました。

宮城内のお庭を見れるかと期待したのですが、ほんの一部を拝見したのみでした。見れた範囲は、手入れが十分であって、きれいでした。

3) 叙勲商売

新聞に名前が公表されると、厚いカタログがどさどさと送られてきました。それらには、額縁から、記念品になる品々が、菊のご紋章入りで並んでいました。会社により、若干の相違はありましたが、値段が違っただけでした。私の場合は、続「医事雑感」なる本を作って、皆さんに贈りましたので、用無しでしたが、多くの人は何らかの記念品を贈るので、それに付け込むというように、商売がなりたつようです。

4) 祝電

祝電というと、結婚式でのそれがありますが、叙勲で送られてくる祝電は全く異なります。一つ一つ厚手の紙に包まれたもので、表紙には模様や、絵がかかれていたりします。特別のそれは、ゴッホの絵のコピーをはりつけた豪華なものまでありました。

代議士とか、製薬会社とか、ホテルなどが多いのですが、一番驚いたのは、東京都の支払い基金からのものでした。私が審査委員をしたのは、昭和40年頃で、それも4年間位でした。それなのにどうして知ったのか、大多数の職員はもう定年退職しているでしょうに、驚いてしまいました。

新聞にびっちり並んだ名簿から、自分の知人の名前を見つけるのは、並大抵の努力ではないでしょうに、頭の下がる思いでした。

医局長から、同窓会誌「げんてん」にのせるので、というので、一筆しました。

2007 年東京都ベンチャー技術大賞を受賞して

宮本 正章

平成 19 年 10 月 25 日（木）お台場東京ビックサイトで開催されました第 10 回産業交流展表彰式において、日本医科大学発のバイオベンチャー企業として創業致しましたマゴットセラピーシステムを販売する会社「株式会社バイオセラピーメディカル Biotherapy Medical Co Inc.」が最高賞の大賞を受賞し、石原慎太郎東京都知事より直接賞状、大賞盾、賞金 300 万円を授与して頂きました。本賞は、石原慎太郎知事が特に東京アニメ大賞と共に尽力している賞であり、翌日の朝刊全紙、各雑誌（週間ポスト、週間ダイヤモンド等）、インターネットの Yahoo News にも掲載されました。また、猪瀬直樹副知事のブログでも絶賛され、FM ラジオ J-WAVE 「JAM THE WORLD」にも出演致しました。

現在我々再生医療グループは、治療抵抗性末梢動脈疾患(PAD)の治療に取り組んでおり、前医で看肢大切断と診断された症例或いはもう治療法がないと診断された治療抵抗性症例 58 例を治療し（下肢症例のみ）、50 例の 86.2%に有効性を認め、我々のエンドポイントである疼痛を除去して、自立歩行で退院するという結果を得ております。この治療過程において当初原因除去として、「自己骨髄幹細胞筋肉内投与による血管新生療法（全国 4 施設目として先進医療承認）」を臨床応用致しましたが、血流改善効果だけでなく我々の FontaineⅣ度症例の潰瘍・壊疽症例では、感染が契機となり、蜂窩織炎、骨髄炎、壊死性筋膜炎と進展し看肢大切断となる症例がほとんどです。このため血流改善だけではなく、感染制御、創傷治癒促進効果が重要であり、これらを同時に可能とするマゴットセラピー（医療用無菌ウジ治療）を導入致しました。当初は、オーストラリアシドニー大学より個人輸入していましたが、航空運賃だけで AU\$ 3,000（約 25 万円）必要であり、この素晴らしい新治療法のわが国での普及のためには、日本国内での安全な生産・供給体制なくしては不可能と考え、この治療法に多大なる興味を持っていた友人の福井大学医師と京都大学でお世話になった医療機器会社専務 3 人で起業致しました。各方面からの依頼によりで初代代表取締役社長は、筆者が務めました。日本医大付属病院での使用以前に利益相反（Conflict of Interest）の問題もあり、代表取締役を辞任し特別顧問に就任致しました。これは日本医科大学理事会にも兼業届けを提出し、理事長に御承認頂いております。

3 人で起業し、滋賀県長浜市の琵琶湖畔に位置する長浜バイオインキュベーションセンター内にクラス 10,000(製薬可能な清潔クラス)の研究所を開設し、長浜バイオ大学の卒業生 1 名を採用し、現在長浜より全国の病院に出荷しています。石原慎太郎知事は、表彰式後の受賞企業ブース視察で「これだけのことを 3 人で成し遂げるとは、君たちは究極のオタクだな」と大笑いされておりました。

臨床医の多忙な毎日の業務をサポートするため、我々のバイオセラピーメディカルは、マゴット（医療用無菌ウジ）を販売するのみでなく、この治療法を実施する先生方に治療前後の全ての書式、物品、ノウハウをシステムとして提供する会社であり、ドイツのバイオモンド社と提携し、さらにティーバッグ状の高分子不織布の袋にマゴットを入れて静置するだけで治療可能な「マゴットバック」を開発し、現在会社が特許申請、登録商標申請中です。すでに「マゴットバック」

の臨床応用を開始し、全国に 160 万人いると推計される褥瘡に対しても適応を拡大すべく、今後この療法を病院だけでなく老健施設、診療所、クリニックへの普及に努めていく所存です。さらに平成 19 年 6 月 22 日には、経済産業省より中小企業新事業活動促進法による「異分野連携新事業分野開拓」計画認定案件に認定されました（採択率約 2 %）。このように国、地方公共団体より大きな期待、信頼を寄せられており、全く金銭的な利益にはならない会社ですが（持ち出しのみで給料はありません）、本療法のわが国での普及には欠く事の出来ぬ会社であり、今後も一致団結して皆様より寄せられている期待、信頼にお答えしたいと思います。

最後に本療法のために色々と御協力、御尽力頂いた皆様、特に旧第 1 内科の諸先生方、形成外科の水野博司准教授、百束比古教授、東館 E 4、E 5 病棟の看護師さん達、特に角田聖子係長に深甚なる感謝を申し上げます。また、「バイオセラピーメディカル」のホームページ（<http://www.btmcl.com/>）は、本療法の詳細が充実致しており、リンクからは筆者のブログ「マゴット日記」（<http://56955759.at.webry.info/>）：経済産業省のお役人の指導で始めたものです。」にも飛べますので是非 1 度御一読下さい。皆様本当にありがとうございました。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

連絡先：〒113-8602 文京区千駄木 1-1-5

日本医科大学付属病院再生医療科

TEL: 03-3822-2131 FAX: 03-5685-0987

E-mail : miyamoto-m@nms.ac.jp

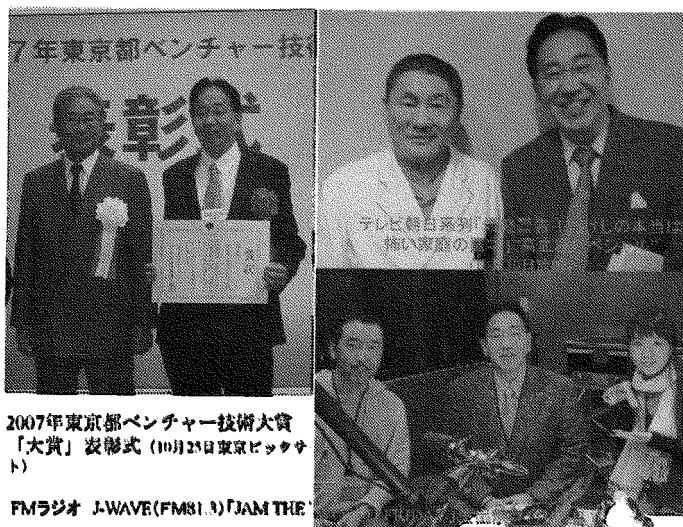
株式会社バイオセラピーメディカル

〒526-0829 滋賀県長浜市田村町 1281-8-10

長浜バイオインキュベーションセンター

TEL & FAX: 0749-53-1485

URL : <http://www.btmcl.com>



2007年東京都ベンチャー技術大賞
「大賞」表彰式（10月25日東京ビックサイト）

FMラジオ J-WAVE (FM81.3) JAM THE

第 12 回日本心電学会学術奨励賞を受賞して

平成 9 年入局 淀川 顕司

このたびは日本心電学会学術集会におきまして学術奨励賞をいただくことができ、身に余る光栄であります。発表した論文は High-frequency potentials developed in wavelet-transformed electrocardiogram as a novel indicator for detecting Brugada syndrome. Heart Rhythm.2006;3(12):1436-44.

Brugada 症候群患者の心電図 QRS 波をウェーブレット変換法を用いて解析し、その内部に異常高周波成分が検出され、それが同症候群の診断に有用である可能性を示したものです。本症候群は健康な中年男子に好発し、心室細動から突然死にいたる重篤な疾患であります。治療は現時点では植え込み型除細動器 (ICD) しかなく、それゆえに本症候群の的確リスク層別化は重要な課題であるわけですが、残念ながら現在でも特に無症候性 Brugada 症候群の取り扱い（どのような症例に ICD を植え込むか）については意見の一致をみておりません。今後かかる症例の長期のフォローアップを行い、ウェーブレット変換法の有用性を検討していきたいと考えております。私の中で思い出に残っているのは、2003 年、ワシントン DC で初めて海外で学会発表をしたときのことです (24th Annual Scientific Sessions of the North American Society of Pacing and Electrophysiology)。Pedro Brugada が突然私のポスターの前にやってきて、しばらく見入ってから “Very Interesting!”

といって握手を求めてこられました。驚きのあまり私はそれを写真にとるのを忘れてしまいました。森田先生、小原先生のサポートもあり何とか無事発表を終えることができました。

その後さまざまな検討や追加データを加え何とか発表が論文として日の目を見ることができました。多忙にもかかわらず論文の殆どをご指導いただきました森田典成先生にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。また、貴重なアドバイス、サポートをいただきました小原俊彦先生、高山英男先生、小林義典准教授、加藤貴雄教授、高野照夫教授に心より感謝申し上げます。

第 11 回日本心電学会学術奨励賞優秀賞を受賞して

平成 10 年卒業 堀江 格

この度、日本心電学会から第 11 回日本心電学会学術奨励賞優秀賞を頂くことができました。受賞した論文は、"Adenosine-sensitive atrial tachycardia originating from the proximal coronary sinus"です。この論文は、米国 Heart Rhythm Society 公認雑誌であります *Heart Rhythm* 2005 年、2 巻、12 号 1301-1308 項に掲載され、私の学位論文となりました。

論文の中身は、冠静脈近位部起源の心房頻拍の電気生理学的特徴、アデノシン 5'リン酸化物(ATP) 負荷に対する反応、高周波カテーテルアブレーションの結果を検討したものです。本検討の結果、同頻拍は全 7 例で少量の ATP に感受性を有し、また、頻拍周期が短く最早期興奮部位における高周波通電で根治される小さなリエントリー回路を有する型と、頻拍周期が長く Slow pathway 領域における通電で根治される大きなリエントリー回路を有する型の 2 型が存在することが示唆されました。

本検討の対象となった、ATP 感受性を有する冠静脈洞近位部起源の心房頻拍は、非典型的房室結節リエントリー性頻拍との鑑別が困難であるとして、研究会、学会でもこれまで何度も議論の対象となってきました。しかし、これまで新しい心房頻拍の entity として論文にまとめられたことはありませんでした。本論文において、種々の電気生理学的所見から、本頻拍を心房頻拍として診断し、またその治療法として、最早期興奮部位のみならず Slow pathway 領域での高周波通電により根治しうる亜型を提起した点において選考委員の方々から評価いただけたものと考えております。

この研究の対象となったひとつひとつの症例は、自分のもつ不整脈によりその生活の質を制限されていたひとりひとりの患者さんです。その患者さんのもつ不整脈を"やっつける"ために私が所属する日本医大第 1 内科 EP 班は、毎週木曜日、土曜日には朝から血管造影室にこもり、カテーテルアブレーションを行います。(症例によっては夜までとなることもあります。)そして小林義典准教授の御指導のもと、患者さんの心内から得られる電位のひとつひとつを見逃さずに、そのもつ意味を考え、不整脈のメカニズムを同定し、そしてその根治を最期までねばり強く目指します。私は、すばらしい先輩と後輩とともにこの仕事に従事できたことをいまでも誇りに思います。

この研究は、私の初めての日本循環器学会での発表の題材でもあります。電気生理のコンセプトを十分に持たず、未熟であった私を、いつも医局で夜遅くまでご指導いただき、学会発表から論文掲載まで、ゼロから引きあげてくださった私の指導医、宮内靖史先生に心より感謝いたします。

受賞の言葉

山本 真功

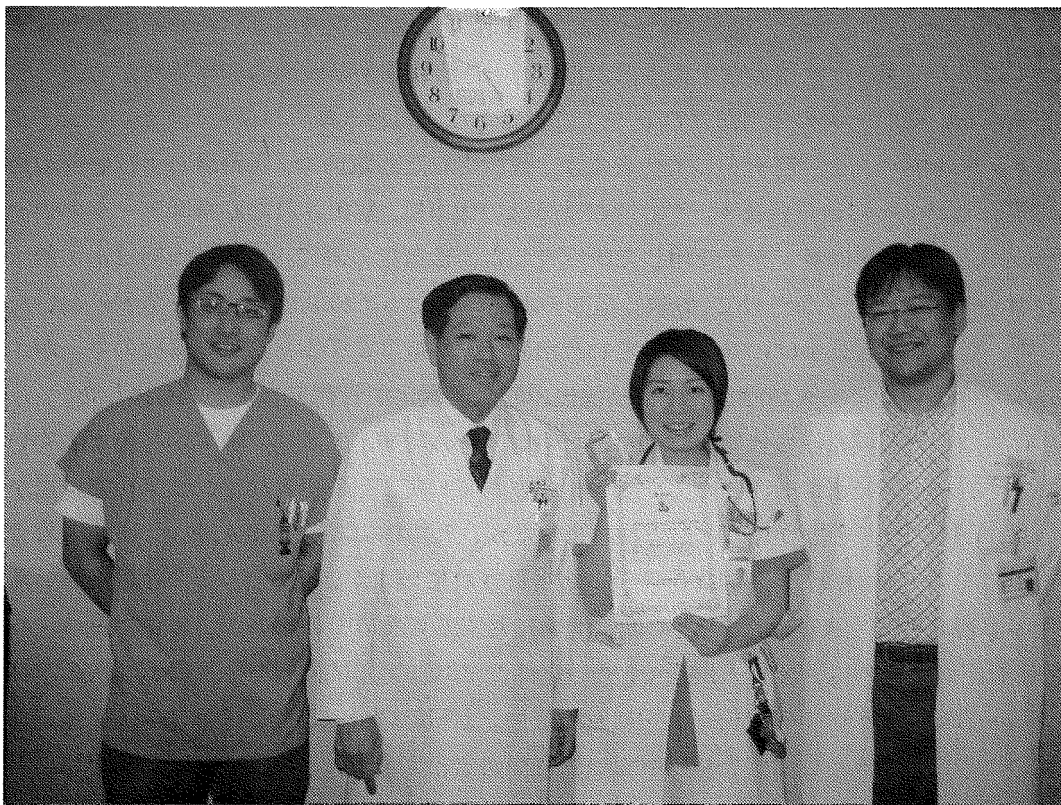
この度は、平成 19 年度第 21 回日本血管内視鏡学会において、内田賞（学会賞）を賜うことができました。ご選考いただきました関係者の方々に心からお礼申し上げますとともに、これまで御指導、御鞭撻いただきました多くの諸先輩方に感謝の意を表させていただきます。私事ではありますが、医師としての進路に迷っている中、水野杏一先生にお誘いいただき日本医科大学千葉北総病院で内科全般を研修医として学びました。初期研修を終え循環器科で研鑽を積むことを決意し、知識も経験も未熟な自分に多くの学会発表の機会を設けていただき、発表を通して日々勉強の毎日を送らせていただいております。今回の発表は、薬剤溶出性ステント留置後の血管内視鏡を用いた経時的観察をまとめたもので、血管内視鏡から何が提言できるかを熟考しました。会場での貴重な御意見、示唆に富む議論は、本学会でのみ傾聴しえるものであり、参加する重要性を再認識しております。褒賞の目的は若手医師の鼓舞にあると伺い、激励の意を感じながら、今後も日々精進することを強く決意する次第であります。

第 205 回日本循環器学会関東甲信越地方会 YIA 賞を受賞

千葉北総病院研修医（内科・循環器）野崎文華さんが

2007 年 9 月 29 日（土）、千代田区砂防会館で開催された第 205 回日本循環器学会関東甲信越地方会（国立国際医療センター廣江道昭会長）において、本学千葉北総病院研修医（内科・循環器）の野崎文華さんが Young Investigator Award を受賞した。受賞演題は「PCI 後慢性期に顕在化した冠動脈瘤に対し Covered Stent 留置が有用であった一例」であり、潜在性冠動脈瘤症例における急性心筋梗塞発症機序を、冠動脈血管内超音波、血管内視鏡、MD-CT など先端画像の興味深い経過をもとに熟慮考察した報告がなされ、審査員との質疑応答の内容も高く評価された。日本循環器学会関東甲信越地方会において、YIA 賞は今回から初めて開設されており、記念すべき初回の YIA 賞を受賞したことは悦ばしい限りである。

写真：野崎研修医（右から 2 人目）と指導スタッフ（稲見助教、清野教授、山本助教）



セントルイス大学に留学して

佐野 純子

2004年10月より2007年9月まで、アメリカのセントルイス大学循環器科心電図研究室(St. Louis University Core ECG Laboratory) に留学の機会を得ました。

セントルイス大学は、アメリカ中央(中西部)ミシシッピ川の上流、ミズーリ州セントルイスにあります。セントルイスの町は、以前は、西部開拓の拠点として栄え、1904年には万博もひらかれた都市で、ブルースの発祥の地でもあります。現在は当時の勢いはありませんが、そのかわり万博跡地の広大な公園をはじめ、街路樹が多く、アメリカの都市の中では一番緑が多い美しい町となっています。研究室(ラボ)は、セントルイス大学の本部および大学病院のあるダウンタウンから車で15分ほどはなれた郊外のビルの15階にあります。ビルの周囲に高い建物が無いこともあって、ラボからは270度にわたって、みごとに地平線まで続く緑のじゅうたんを見ることができました。

ラボはAHA/ACC ガイドライン作成委員の一人でもある Dr. Chaitman が部長のもと、リサーチナース、技師、秘書、事務等総勢15名前後で構成されています。ラボ自体は、治験およびNIHの研究のうちの心電図、運動負荷心電図を専門にあつかう施設で、いわゆる動物実験をする施設ではありません。直接患者を扱うことはなく、各治験および研究の参加施設から送られてきた心電図を、それぞれの担当がプロトコルにのっとり、肉眼(ルーペ使用)、コンピューター画面、デジタルボード上で解析をしていきます。解析された心電図は、各治験および研究の最終的総合解析センターに送られます。ラボにおける私の仕事は、解析された心電図データのチェック、そして、その心電図データを使用した研究でした。私自身の研究内容は、当初は正常若年者12誘導心電図に関係するもので、治験心電図の解析にあたっての基準づくりを念頭においた内容でした。しかし、研究半ばに対象としていた治験(天然痘ワクチン)の二重盲検のキーがオープンとなり、その後は、天然痘ワクチン接種後の心電図変化が研究テーマとなりました。

ラボに行き、いちばん違うと感じたのは、そのシステムです。アメリカは契約社会とよくいいますが、ラボの仕事の運営もきわめてシステム化されていて、その膨大なマニュアルには驚かされました。治験データを扱うためとも思われましたが、ラボのみならず、患者教育、研修医教育、大学組織においても同様に、詳細なシステムが構築されています。一方で、その極端ともいえる分業化の弊害も垣間見ました。個人と組織の関係に対する考え方そのものが日本とは違うようです。全体を把握するのは管理者の役割で、それ以外はマニュアルに従った個々の範囲内の業務のみ行う考え方です。すべての責任が上司に有る反面、上司の命令は絶対です。マニュアルどおりやっていたのに、全体としてうまくいかない場合があるとすると、それはマニュアルが悪いため、個人は悪くないということにもなります。よく、アメリカ人は謝らない、といわれますが、このあたり理由があるよう思えます。また、すべての人間はミスをするのが当たり前、との考え方が根底にあり、マニュアルが作成されています。日本では個人が完璧であることを期待されるのに比較して、個人の責任がきわめて限られ、そのかわりそれを補うシステム構築に力がそそがれている印象がありました。マニュアルを作成する方も、それに従う方も、システムに対する考え方が異なることを痛感し、日本への単純なシステム移行ができないことを感じました。

ラボのあるセントルイスは、実は私の滞在中に全米で一番治安の悪い都市との栄光(?)に輝きました。しかし、その評価とはうらはらに、どの大都市でもあるように、一部の危険地帯を除くと、とてもフレンドリーで親切、きわめてのんびりしていて、住みやすい場所という印象でした。人種的には、黒人と白人が半々で、アジア、ヒスパニック系は少数しかいません。土地のありあまっている中西部ならではの極端な車社会で、一部の地域をのぞいて町で歩いている人を見ることはありません。すべての施設は巨大で、そしてそこに住む人々も巨大(人口の約3分の1がBMI30以上)です。都会的な刺激や観光地はありませんが、アメリカ東部、西部の多民族都市とは全く違った、いわゆるどっぷり「アメリカン」な生活を味わうことができます。一方で、私は、黒人、白人、ネイティブアメリカンをはじめ多国籍のいい友人たちに出会うこともできました。文化、宗教を含め様々な話をする中で、それぞれの考え方の違いを知り、逆に日本がどんな国であるのかを改めて考えるよい機会も得ることができました。

最後に、このような貴重な留学の機会を与えてくださった、第一内科学教室水野主任教授、高野前主任教授、ならびに第一内科学教室の諸先生方に心から感謝いたします。

NIH 留学記

高橋 啓

この度寄稿の機会を頂きましたことを光栄に存じますと共に心より感謝申し上げます。私は2003年5月より4年間ワシントンDCの北端に接するMaryland州のBethesda市にあるNational Institute of Health (通称 NIH)へ留学する機会を得ることが出来ました。ワシントンDCと日本の関係は戦前から非常に良好で、日本から友好のための桜の苗を寄贈したのは有名な話です。現在でも現地では日本人に対して友好的な感情を持っている方が多く、そういった意味では仕事だけではなくプライベートでも比較的快適な生活を送ることが出来ました。アメリカのNIH (日本では、国立生命医学研究所や国立衛生研究所と訳す事もあります) は研究所や研究センターを主とする27の部門から成り、Washington DCの北側Maryland州Bethesdaの300エーカー (東京ドーム92個分) の敷地に、75の建物を所有しています。このNIHは、1887年に衛生学を扱う一研究室としてスタートしましたが、現在では世界最先端の医学研究センターにまで成長し、生命医学分野の研究だけではなく、アメリカ全体の生命医学に関わる研究費を配分したり、政策立案を行ったり、研究も含めアメリカにおける生命医学全般の活動の中枢を担っていると言えます。このNIHキャンパスに日本人研究者が常時約400人いて、様々な分野で最先端の研究を行っています。

私は最初の二年間はNational Institute of Heart, Lung and Blood Institute (NHLBI), 後半2年間はNational Institute of Dental and Craniofacial Research (NIDCR)に属しておりました。始めの二年間はDr. Neal Ebsteinの下、マウスの筋肉細胞を様々な抗体で修飾することにより、骨格筋から心筋細胞を分化させうる成分を抽出する研究を行い、最後の二年間はDr. Jay Chioriniの元、血友病、ファブリー病、シェーグレン病等の遺伝子治療を各疾患のマウスモデルを用いて行っておりました。NIHの利点として実験予算が国から直接下りるのでグラントを申請する必要が無く、その時間を実験に廻せることがあげられます。実際NIHでラボを持つのは本当に大変で、各分野においてアメリカのトップ10には入っていないとかなり厳しいようです。

ところでアメリカ人は日本人と根本的に考え方が異なるようです。若い頃から家庭至上主義の生活であり、子供や女性に大変優しく、それは子供の頃から教育されているようで、見習うべき所は多かったように思います。赤ん坊連れの家族には、小学生くらいの子供が扉を開けて待っていたりしてくれるのです。これにはいつも感心させられるばかりです。ラボにおいても家族の誰かが病気になった場合、そのことが十分に仕事を休む理由になりますし、休まないでいると、「何でお前は仕事に来ているんだ？」と逆に不思議がられてしまいます。

ところが、良い事ばかりではありません。日本の方が優れた点も沢山あります。一番は何と言っても食事です。アメリカでは質より量が重視されているようで、味は本当に適当です。肉もばさばさだし、魚も生臭い、野菜は古く、外食にしても繊細な料理にありつく事はめったにありませんでした。しかし矛盾するかもしれませんが、だんだん生活していくうちに日本以上に高級スーパーと庶民的スーパーの格差が大きいようで、良いものは何でもお金を出せばとりあえず手に入る事が分かってきました。また、アメリカは今でも人種差別もあるし、発砲事件も多々ありま

す。でもそう言った差別でいちいち落ち込んでいられないし、シューティングと言っても近所で起きているわけでもないのですが、ただ、そのたびに身が引き締まりました。また、アメリカ人は御存じの通り、日本人程几帳面ではありません。クレジット社会ですが、使ったらきちんと明細を確認しないと痛い目にあう事もあります。何かトラブルにあって文句を言っても絶対謝りません。まさに契約社会といえます。このことは実験においても当てはまり、常に記録をつけておくことの重要性を学びました。

こうした苦労もありましたが、アメリカでは本当に多くの貴重な経験をする事ができ、満足のいく留學生活が送れたような気がします。このような機会を与えて下さいました第1内科水野教授、高野前教授、第二生化島田教授はじめ医局の皆様には心より御礼申し上げます。



NIDCR のラボの仲間達と。



NIH の中心、Building10

“げんてん埼玉” 発足

10年程前、日本医大第一内科の埼玉県のOB会なるものを立ち上げ、現職の教授に埼玉まで来ていただき、大学や医局の現情報を伺ったり、何かお役に立てないか？との目的で交流会を持ったことがありました。早川先生や岸田先生に来ていただいた記憶があります。高野先生が主任教授になられて、同会に来て頂きたい旨を打診致しましたが残念ながらスケジュールの調整がつかないまま、数年がたちこれと共に、同会は一時立ち消えになりましたが、皆の要望が再燃。平成16年“げんてん埼玉”と命名し、年一回総会を開き、第一内科の教授・助教授などに講演を賜る形式にしました。会員は対象を広く募り、埼玉県に居住または仕事（バイトも可）する第一内科の現在・過去の在籍者が会員該当とすることに決め、会を再興させました。

リニューアルした第一回目には太田眞夫助教授（当時）をお呼びし、特別講演「メタボリックシンドローム・その概念と治療」を話して頂きました。講演後、会食しながら旧交を温め、最近の大学や医局のことや互いの近況等の情報交換の場を設けました。第二回目は里村教授に「慢性肝炎の最近の治療」、清水秀治医員に「肝繊維化とキマーゼ」につき特別講演をして頂きました。第三回目は宮本正章助教授に「重症難治性足病変に対する再生医療を応用した最新医療」と題し、下肢切断を回避する治療スポットを当てて話されました。さらに名知仁子先生には“国境なき医師団”の一員としての体験談、「医師として異国で働く喜びと難しさ」を話して頂きました。どちらも我々開業医には日常診断からかけ離れた関わりの薄い話ではありましたが、普段知り得ないジャンルの話だけに、出席者一同、熱心に講演に耳を傾け、懇親会でも色々な質問が盛んに飛び交いました。そして今年、2007年には水野杏一主任教授にお越し頂き、特別講演「循環器 最新の画像診断」を話して頂きました。これらの分野の画像診断には医局を離れて暫らく経つ者達には、今さらながら隔世の感がありました。

埼玉は距離的に医局とは近く、OBも比較的沢山いるので、何かと医局のお仕事（多施設研究など）のお手伝いが出来ればと、橋本啓一代表をはじめ会員一同、考えているところであります。

ただ発足以来一つ残念なことは、毎回の出席者数が10名不足と少ないことであります。今後、もう少しこの会を発展する方向にもって行きたいと考えております。

尚、いつもこの会の運営等、援助をして下さっている旧田辺製薬株式会社の方々には感謝に堪えません。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。

2007年12月吉日 文責；ふくだ内科・循環器科；福田 純

榊原記念病院での新たな Cardiology のスタート 高山 守正(S52 卒)

11 月から財団法人日本心臓血圧研究振興会附属榊原記念病院にて循環器内科部長として勤務をはじめました。やっと 1 ヶ月が経ち病院の中が解るようになり、インターベンションをはじめたところです。30 年間にわたり勤務を続けた日本医科大学の退職にあたっては、私自身を取り巻く環境の都合で決心をさせていただきました。お蔭様で以前より楽に生活と活動ができるようになりました。皆さまには御礼申し上げます。

新たに仕事を始めた病院は既に当医局の先輩の浜本紘先生(S44 卒)ならびに第 2 外科先輩の維田隆夫先生(S48 卒)が長年勤務され、また仕事の関係でご存知のかたも多いと思います。4 年前に南新宿から府中市朝日町の元調布基地の跡地に移り、循環器専門の急性期病院として約 300 床のベッド数で地域の循環器救急の中心とともに全国からの心臓血管病の患者さんの診療を行っています。病院部門は循環器内科 13 人、心臓血管外科 8 人、循環器小児科 5 人、麻酔科 4 人程度のスタッフに、40 人程度の専修医を中心とする医師が一定期間の研修を受けながら勤務しています。単科病院のため合併疾患がある場合は診療に限界がありますが、循環器診療と臨床研究には非常に効率的に作られており、これまでに気が付いた特徴的ポイントを挙げてみます。

まずは電子カルテシステムです。これは既存の製品でなく、独自のシステムを細田瑛一先生の構想とアイデアをふんだんに盛り込んで構築されています。細田先生は嘗ての木村栄一先生を Remind させ、最も厳しくかつ Aggressive で多くを学べます。病院内にはどこもかしこも PC 端末があり、病棟の廊下、各専修医や事務職のデスク、患者説明室にてもすべて同じ情報が得られ、すべての医療従事者の仕事内容が同一なベースに保存され見ることが出来ます。そしてすべての心血管造影、CT、RI、心エコー図など容量大きな画像も巨大なサーバーに蓄積され、どこでもそれを開き Discussion できます。また入院患者のベッドサイドでは各々の患者情報のみ見られるようになっており、同時にこれは看護師がその場で与薬やケアの記録を確実に保存できるようにしています。

Medical Secretary(MS)システムと医療連携が広い範囲、多方面に機能しすべてをスムーズに動かしています。MS は、最近厚労省も取り上げ保険診療体系への導入が検討されていますが、外来診療では医師の傍らについて事務的な仕事を処理し、不足点を補足し、ミス防止や診療の正確化に大きく貢献しています。また医療連携室は患者と地域や他施設との連携のみならず入院に関するコントロール、診療情報の確実な送付、入院の連絡や案内なども行います。急性心筋梗塞で初期にステント治療を行うと、10-14 日には退院しますが、その後は外来診療枠には入れず原則は紹介医や近くの GP に戻します。しかし 8 ヶ月目には再度 CAG 目的で入院し、患者評価により必要に応じ治療の是正を行います。これらは医療連携室がオーガナイズしてくれます。

このようなシステムがうまく機能し患者情報処理が円滑となり、多数の患者数をこなす事が出来ます。心カテ数が年間 3500 例、インターベンション数が 750 例、心臓血管外科手術が 1200 例あっても、余裕をもってこなせている現状です。そして多数の診断カテーテルを垣根低く実施できる基盤をつくる事が病院としての実績を高める事に確実に結びついています。これからは日本医科大学内科学講座医局と協力して、中堅医師の循環器病学スキルアップや共同臨床研究などどんどん貢献させていただく所存です。

新医師臨床研修制度指導医へのチャレンジ

医療生活協同組合養生会理事長

本駒込クリニック所長 伊藤恵子（昭和56年卒）

平成16年に新医師臨床研修制度が開始され、初めての研修医が平成17年度より地域保健・地域医療のプログラムに参加している。プライマリケアの実際を学ぶまたとない機会だが、受け入れる診療所などの施設はそれなりの準備が必要である。近年の医学教育は学習者中心型教育であり、学習の一般目標 General Instructional Objective(G I O)、行動目標 Specific Behavioral Objectives (S B O s)、学習方略、評価などが明示されている必要がある。私が受けてきた医学教育とは、かなり異なったスタイルで教育を受けてきた新しい医師を“指導”しなくてはならないのである。

そこで、私は東京都医師会主催の第4回「指導医のための教育ワークショップ」(平成17年7月17、18日)に参加した。14地区医師会から臨床経験7年以上の28名の医師が4グループに分かれグループワークを中心に、臨床研修の問題点、カリキュラム、学習目標、学習方略、教育評価などにつき学習、指導者としての教育を受けた。

平成18年1月いよいよ我が診療所にも文京区医師会の要請があり、3週間の研修期間で都立K病院のN先生(外科志望)が派遣されてきた。まず、オリエンテーションの後、プレアンケートだ。当施設の研修目標である①外来診療②病診連携③訪問診療④介護保険⑤社会福祉の理解度を自己評価、今回の研修で学びたいことは何かを記入してもらう。

外来診療開始。まずは、隣で見学。N先生を患者に紹介し後はいつもどおり診察、短く説明を加え、すぐ次の患者へ。それでも、カルテが溜まってゆく。説明は省略傾向となり、横を見ると研修医君は明らかに集中力を欠きうつろな表情に・・・こうして午後の外来終了後、1件心臓超音波検査の予約あり。一通り終わった後、実際にプローブを持ってあててもらう。慣れない手つきだがイキイキした表情で真剣に取り組んでいる。実際に自分で経験しなくては身にならないということだ。2日目は、私の日本医大付属病院の心臓超音波検査の仕事に同行してもらう。外来や病棟の症例5件の検査を行う。最初は見学、最後に1例プローブをあててもらう。質問・解答まじえながら実習は順調に進み、本間博先生のおかげで取らせて頂いた超音波専門医の資格が有効だ。3日目は研修の目玉の在宅訪問診療。24時間対応在宅療養支援診療所として登録しており、基本は一人の患者を月2回計画往診し、緊急時は臨時往診する体制で24時間連絡可能となっている。対応可能な治療方法は緩和ケア(WHO方式)、在宅酸素療法、気管カニューレ管理、胃ろう(P E G)管理、末梢静脈栄養、在宅中心静脈栄養(I V Hポート)、膀胱留置カテーテル、在宅看取り等である。1日に10件程度を電動自転車で回診して行く。N先生は水を得た魚の様に気持ちよさそうに自転車をこいでいる。かばん持ち、バイタルチェック、カルテ記載などをしてもらう。たまたま、N先生がK病院で入院中診察したK氏宅を訪問、感動の再会。まさにこれが本当の病診連携だ。3週間の最後にポストアンケート(プレアンケートと質問はほぼ同一)に答えてもらい、理解度のアップを確認。研修終了後のN先生の感想文には「病気はその人にと

っては一部分でしかなく、医療者はその人自体、生活・性格・財産・家族をみていかななくてはならないということが理解できました。」とあり、地域医療研修の効果が感じられた。以上が研修の概要である。現在まで年間4～5名（日本医大3～4名、都立K病院1名）の研修医が来ている。大学病院や他の大病院と地域の診療所の連携がスムーズになることが医療者のみならず患者にとっても意味のあることであると信じ、これからも続けてゆきたいと考えている。

この場をお借りして紹介させて頂くと、医療生活協同組合養生会は3診療所と1訪問看護ステーションから成り立ち、いずれも日本医科大学付属病院を取り巻くように位置している。本郷診療所の所長は第1内科の福間祐美子先生であり、その他多数の先生が非常勤医師として盛り立てて下さっている。今後とも宜しくお願いいたします。

最後に医局時代ご指導頂いた奥村英正名誉教授、早川弘一名誉教授、加藤貴雄教授、女性医師として手本を示してくださった川口信子先生、富士崎成子先生、菅原博子先生、良き協力者である夫良則に感謝いたします。



いま、思うこと ～鶴見大学歯学部内科に赴任して～

高木 郁代（昭和63年入局）

臨床大好き。心カテ命。結婚なんてない！と思って突っ走って来た20代。母を看病し、父を介護し、ともに見送り、縁あって結婚もした。夫に付いて渡米。帰国して『主婦兼 part-time doctor』が定位置になった。30代も終わる頃、これが自分の役回りだったのかな…と思うようになった。『人生の配役』。そんな思いは幼い頃からあった。無論、宗教家でも、運命論者でもない。でもどんなに自分で人生を切り開いているようなつもりでいても、やっぱり人は社会という箱庭の中で、予め立ち位置を決められて、定められた道筋を辿っているのではないかな…時折そんな風に思う。お尻を叩かれて学位論文を仕上げる。この役にはありそうなシチュエーションだ。キビキビと新しいプロトコルを提案する。う～ん、このキャラには似合わない。昼下がりのデパチカ散策。『主婦兼』なんだから、あるある。この役が板についてきて、お尻を擦りながら漸く学位を頂戴した初夏のある日、指導医の子島先生から「鶴見に来ないか？」と誘われた。即座に「冗談ですよ。」と二人で爆笑。あれもこれも、それも出来ないと挙げ連ねる私に「ぐちゃぐちゃ言っていないで、とにかく来てみなよ、面倒見るから。」さらりと言いつ切る。『講師になる』なんて考えられないけれど、『面倒を見られる』は中年の主婦には甘美な響きだ。それでも散々悩んで、「絶対あとで貧乏くじを引いたとは言わない。」と約束させて(!)、謹んでお受けした。

鶴見大学。総面積約15万坪、東京ドーム10個分の敷地に鎮座する曹洞宗大本山總持寺の門前に建つ。幼稚園から短期大学部に至るまで、小学校以外全年代の教育に携わる学校法人總持学園グループの一角を担う。歯学部の総学生数は約800名。未来の歯科医師を目指す彼らも、教室での姿は時代を映す『イマドキの』若者だ。一学年130人のそんな彼らを前に内科学全般を講義する。能天気な私もさすがに、赴任してすぐに気が付いた。とんでもない『お仕事』をお引き受けしてしまったと。講義のほか、外来診療と検査。勉強する暇はあるからと言われて来たが、子島先生の努力の賜物、うれしい誤算というべきか、外来患者は増える一方でなかなか自席を暖める間がない。でも『面倒を見る』に嘘はなかった。こんなに毎日叱られるのは、研修医の時以来だ。最後は決まって「郁代はあまい!」。この2ヶ月余の間にその言葉を何度聞いたことか、否、言わせてしまったことか。でも、昨日ふと思った。私の学位論文「Chronic direct stimulation of adenylyl cyclase induces cardiac desensitization to catecholamine and beta-adrenergic receptor downregulation in rabbits(J Cardiovasc Pharmacol. 2006)」の内容について、子島先生はきっと私以上にご存知のはず。それなら毎日叱った結果、私に起こる『desensitization』の可能性についても…(笑)。いまは第一内科『叩き上げ』の子島先生の目を盗んでは日本語(!)の教科書を読みあさる日々である。

「不惑一四十にして惑わず」。孔子は七十四歳まで生きたが、『論語』が記された周王朝時代、人の寿命は四十年か、五十年か。この矛盾を説明するのに『論語』の2倍年暦説もあるようだが、とりあえず自分に都合よく解釈すれば寿命80年の現代、私にももう少しの試行錯誤は許されるのだろうか。

人生は変えられるのか、それとも予想外の変化までもが『台本』通りなのか。未熟な私には、まだまだ分からない。でも今は、幕の上がった新しい舞台で、与えられた役割を一所懸命にがんばろうと考えている。

最後に今回の赴任に際して、御高配下さった水野教授、大英断の子島先生、私を育てて下さった先輩、同・後輩の皆様および、亡き両親に代わっていつも優しく背中を押して下さる高野常任理事ご夫妻に深く感謝致しますとともに、引き続きのご指導ご鞭撻をよろしくお願い致します。筆を置きます。

新入医局員の抱負

平成19年度は計9名が入局してくれました。千駄木の付属病院に、秋谷麻衣、岡崎大武、小宮山英徳、佐藤太亮、原千鶴子、松本綾乃、柳田隆行の7名、小杉病院に、木下賀央里、春原(すのはら)沙織の2名です(敬称略)。抱負を依頼したところ、以下の諸君が書いてくれました。

「原点」抱負

専修医 岡崎大武

第一内科に入局して8ヶ月が経ちました。最初は右も左も分からぬ状況で、多くの不安がありました。諸先輩方の丁寧な御指導の元、なんとかこの生活にも慣れてきました。昼も夜も休日もなく働き続ける先生方の医療に対する情熱を拝見して、「きっと今の医療はこのような先生方の、献身的な精神によって支えられているのだろう」と感じました。私は、そのような多くの尊敬できる先輩方と同じ環境で働けることを幸せに感じます。入局するときは多少の迷いでしたが、今では本当に第一内科を選択して良かったと思います。

「医療の変革期」といわれる昨今、相次ぐ訴訟や医療過誤の報道を見て「明日はわが身」と背筋が凍りつくような思いさえします。この先、さらに我々医師にとって厳しい時代が到来するとの声もあります。昔の医療を知らない私にとっては、何がどのように変わろうとしているのか、そして今後どこへ向かうのか、身をもって把握するのはいささか困難に感じます。ただ、患者さんと我々医療従事者を取り巻く環境は変わったとしても、「病と、そしてそれと向き合う患者と対峙する」医療の本質は昔もこの先も変わらないと私は信じています。決して本質から目を逸らさぬよう、目の前のひとつの命と対峙しながら医師として、人間として成長すべく精進して参る所存です。諸先生方の御指導とご鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

第1内科に入局して

今年入局しました専修医1年目の佐藤太亮です。

自分は研修医のときに第一内科をまわらせていただいて、医療や患者様に対する取り組み方がとても熱心でしっかりしている先輩方が多いと感じ、自分もこのような環境で働きたいと思い入局を決意しました。

現在はまだまだ未熟なことばかりでまわりの先生方に迷惑をかけてばかりですが、一つでも多くのことを勉強し吸収して、偉大な先輩方に少しでも近づけるように努力していきたいと思っています。

第1内科に入局して

松本 綾乃

第一内科に入局して8ヶ月が過ぎました。

とても忙しい毎日を送っていますが、日々多くのことを学び、大変充実した毎日です。

第一内科に入局したのは、循環器に興味があったというのが一つですが、初期研修でローテーションしたとき、たくさんの素晴らしい先生方に会いご指導していただき、大変有意義な研修を行うことが出来ました。このような環境の中で、多くのことを吸収し自分をより成長させることが出来ると思ったからです。

今後は、研修医のときに学んだ、各分野の基礎をもとに、循環器という専門を学び、経験を重ねていきたいと思っています。そして、その知識をもとに、患者さんの気持ちを理解した上で、各々の患者さんに合わせた医療を行っていききたいと思っています。まだまだ、多くの先生方のお力添えに甘えることが多いと思いますが、私自身、精一杯頑張っていきますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

げんてん会活動報告

1. げんてん会総会および水野杏一教授主任教授就任祝賀会

平成19年度のげんてん会総会は、水野杏一教授主任教授就任祝賀会に合わせて平成19年6月30日（土）帝国ホテルにて開催され、これまで以上に多数の先生方にご出席いただきました。総会では山崎登志雄会長のご挨拶、水野杏一教授より主任教授就任のご挨拶、そして高野照夫名誉教授より退任のご挨拶と共に日本医科大学常任理事としてアクションプラン21の進捗状況の説明がなされました。また岸田 浩教授、水野杏一教授、田中啓治教授、清野精彦教授よりそれぞれの主催学会の報告がなされました。その後、新入医局員の入局報告、医局長交代の挨拶、げんてん会々費納入状況と共に次回より年会費を5000円から1万円に値上げする趣旨の説明があり承認いただきました。また、昨年度収支報告がなされ、満場一致で承認されました。

総会終了後、引き続き帝国ホテル孔雀東の間で水野杏一教授就任祝賀会が開催されました。遠方からも多くの先生方にお集まりいただき総勢521名の出席となる、極めて盛大な祝賀会となりました。高野照夫名誉教授より主任教授交代のご挨拶の後、赫 彰郎理事長、荒木 勤学長、田尻 孝医学部長、京都大学副学長北 徹教授、千葉大学副学長斎藤 靖教授、日本大学上松瀬勝男名誉教授より祝辞を頂戴しました。そしてこれら来賓の先生方と共に奥村英正名誉教授、早川弘一名誉教授、馬越同窓会長にも壇上に上がっていただき鏡割りが行われました。その後も多くの先生方の祝辞をいただき和やかに楽しく祝賀会は進行し、最後に水野教授より、伝統ある日本医科大学第一内科学教室を日本一の教室にするために教室員と共にさらに努力邁進する旨、力強いスピーチがなされ、お開きとなりました。

2. 第13回日本心臓病リハビリテーション学会学術集会

岸田浩先生が、2007年7月13日（金）～14日（土）、都市センターホテルとシェーンバッハ・サボー（砂防会館別館）を使用して、第13回日本心臓病リハビリテーション学会学術集会を主催されました。「先進医療としての心リハをめざして」をテーマに、特別講演2題、シンポジウム・パネルディスカッション3題、教育講演1題、教育セミナー16題が企画され、190題の一般演題の応募がありました。参加者は約1,600名と大盛況で、一番印象深かったのは、宇宙飛行士、毛利衛氏の特別講演でした。「宇宙飛行とリハビリテーション」というテーマで講演され、「無重力では心臓がポンプとして強くなくても血液が簡単に循環するので、長期滞在すると心臓の機能も衰えてしまいます。宇宙飛行士が地球に帰還後も心臓リハビリテーションが重要な課題になるかもしれない」と動画を交えながら語られました。宇宙を2度旅した氏の、我々凡人のスケールを超越した、死生観・世界観に触れることができました。岸田先生は2年以上前から毛利氏を演者に狙っていたそうです。承諾には、正式のルートではなく、奥様どうしのつながりが重要だったのだそうです。

3. 第一内科忘年会

平成19年12月8日（土）、東京ドームホテルで第一内科忘年会が行われました。今回は、奥村英正名誉教授の瑞宝小綬賞受勲のお祝いを兼ね、盛大な会になりました。水野教授、山

崎会長のご挨拶のあと、加藤教授の乾杯で宴が始まりました。奥村先生へのお祝いの言葉は、早川先生と荒牧先生でした。早川先生のスピーチは、みんなで「おめでとうございます」を唱和する極めて単純で短い“早川流”パフォーマンス、荒牧先生は木村栄一先生の「行間を読む」から始まり、奥村先生の「教科書に1行加える」という座右の銘を紹介する“荒牧流”論述風長文で語られました。奥村先生は受賞を大変喜んでおられた御様子で、勲章をもらうには「長生きすること」と、「推薦文は人に頼むこと」という助言を残されました。その後は、歓談、ビンゴゲームなど例年どおりのコースで終了となりました。

4. げんてん会会費納入のお願い

げんてん会の年会費は平成20年度より、10000円に値上げされました。何卒、よろしくお願い申し上げます。

5. 次回げんてん会総会

例年通り、平成20年5月下旬を予定しております。平成20年度も優秀な医局員を迎えることができそうです。新入医局員の歓迎会を兼ねて行いたいと思いますので、皆様ご臨席下さいますようお願い申し上げます。

6. 開催学会予定

今年度は、以下3つの学会が主催されます。ご協力よろしくお願い申し上げます。

第14回日本血管内治療学会総会

会長：水野杏一 教授

日時：平成20年7月25日～26日

会場：アルカディア市ヶ谷（学士会館）

第17回日本集中治療医学会関東甲信越地方会

会長：田中啓治 教授

日時：平成20年8月30日

会場：東京ドームホテル

第209日本循環器学会関東甲信越地方会

会長：清野精彦 教授

日時：平成20年9月27日

会場：東京ステーションコンファレンス（サピアタワー）

7. 日本循環器学会評議員選挙

お蔭様で第一内科より水野杏一教授、岸田 浩教授、加藤貴雄教授、宗像一雄教授、新 博次教授、清野精彦教授、高山守正講師の7名が評議員に当選され、日本循環器学会の中でも大きな勢力を築くことができました。ご協力いただき誠にありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。

2006 年 4 月

異動 研修医 大学院生

付属病院

外来(4)

八島、塚田、福本、
(安武ひ、柏木、馬場、福間祐、高木郁、西垣、横島、
田辺浩、宮内瑞、加藤祐、加藤和、真鍋、徳泉、春日、)

A6(13+2)

小原、宮内、清水治、藤田進、川嶋、上野、牛島、
藤本、北村、村田、吉田明、大森、森澤、太田、及川、

C6(13+1)

浅井、青木、大野忠、馬淵、愛須、高橋保、谷口、
山下、佐々木、東、山本哲、小橋、鶴見、大場、

E5(12+1)

高野仁、田中古、小野、高木元、丸山、山本英、
岡崎、太良、菊池、宮元、西城、川中、安田、

CCU(8+2)

山本剛、岩崎、平澤、加藤浩、吉川、村井、神谷、中田、
竹内、渡辺、

生理機能

本間、

丸子(17)

寺田、内田、川口、高橋直、山口、網谷、竹永、阿部、石川昌、
酒井行、原田、大塚、花岡、金子、藤堂、小島、手塚、

健康管理科

山中、

北総内科(13)

大場、大野則、清宮、高野雅、稲見、徳山、淀川、田近、
小川紅、村上、富田、山本真、宮本倫、

CCU(6)

今泉、横山真、品田、椎葉、鈴木雄、白壁、

永山(15)

田寺、小谷、緒方、松本、佐藤越、石井、吉田博、堀江、
福島、時田、宗像亮、加藤活、鈴木浩、篠田、中込、

北村山

金村、佐伯、亀山、岩本、宮地、

駒込

説田、荒尾、

神栖

笠井、長野、本郷、小杉、

大倉山

長江、後藤、三浦、

博慈会

小川剛、田中邦、渋谷、木股、

東京リハビリ石川貴

静岡医療セ

横山広、田邊潤、細川、小林宣、稲見徹、小鹿野、青木亜、

鶴見歯科

磯田、

同愛(糖尿病)

櫛方、小原啓、大野大、

同愛(循環器)

星野、板倉、中村、

久我山

高山英、

三愛(永山の派遣病院)

岡田、

留学(9)

佐野、遠藤&育、上村、坪、林、高橋啓、高久、森田、

休職

土田、舘岡、吉川真、與田、

退職

洪、奥村、清水一(2月末)、三船、

登戸

閉院

研修医の竹内、渡辺が CCU へ、太田、及川が A 棟へ変更

2007 年 3 月

異動 研修医 大学院生

付属病院

外来(3)

八島、塚田、福本、

(安武ひ、柏木、馬場、福間祐、高木郁、西垣、横島、田辺浩、
宮内瑞、土田、加藤祐、加藤和、真鍋、徳泉、時田美、)

A6(10+1)

小原、宮内、清水治、田中古、川嶋、上野、牛島、岡崎、
林寛、森澤、本間英

C6(11+1)

浅井、青木、大野忠、愛須、高橋保、館岡、東、藤本、
山本哲、小橋、鶴見、乾

E5(10)

高野仁、藤田進、高木元、丸山、山本英、太良、宮元、
村田、西城、川中、

CCU(8)

山本剛、岩崎、平澤、加藤浩、村井、神谷、吉田明、中田、
生理機能 本間、

武蔵小杉(15)

内田、川口、高橋直、山口、網谷、阿部、石川昌、酒井行、
原田、岩本、本郷、大野大、金子、藤堂、手塚、

健康管理科

山中、緒方、

千葉北総(10)

大場、大野則、清宮、高野雅、稲見、徳山、淀川、田近、
村上、山本真、

CCU(6)

横山真、品田、鈴木雄、小林宣、白壁、菊池、

多摩永山(14)

小谷、松本、上村、佐藤越、堀江、福島、吉川、
時田、宗像亮、細川、青木亜、渋谷、岡田、中込、

北村山

金村、佐伯、富田、稲見徹、

駒込

説田、荒尾、

神栖

笠井、長野、小杉、鈴木浩、

大倉山

長江、後藤、

博慈会

小川剛、田中邦、加藤活、木股、

東京リハビリ石川貴

静岡医療セ

田邊潤、椎葉、小鹿野、佐々木、宮地、北村、

鶴見歯科

磯田、

同愛(糖尿病)

櫛方、小原啓、大塚、

同愛(循環器)

星野、板倉、中村、

久我山

高山英、

八丈島

花岡、

留学(7)

佐野、遠藤&育、坪、林、高橋啓、森田、

休職

小川紅、吉川真、鈴木小、山下、篠田、

退職

田寺、宮本倫(退職 H18.12)

CC

年月日	症 例	病歴番号	演 者	司 会	診 断
平成18年					
4月18日	66歳、女性	350095	吉田明日香	小原俊彦	VF during HD、 Systemic primary amyloidosis with cardiac, renal, goiter and gastrointestinal involvement
4月25日	37歳、女性	353755	小橋啓一	浅井邦也	FUO Chronic thyroiditis
5月16日	54歳、女性	350467	北村光信	藤田進彦	Chronic respiratory failure (Hugh-Jones V) due to interstitial pneumonia and pulmonary hypertension (WHO III) with cor pulmonale
5月30日	45歳、男性	247301	田中古登子	清野精彦	CHF due to severe AR, moderate AR Marfan syndrome
6月20日	42歳、男性	356061	川中秀和	高野仁司	acromegalic cardiomyopathy with severe MR and non-sustained VT post operative state for acromegaly
7月4日	58歳、男性	353015	林 寛子	宮内靖史	Polymyositis with fibrotic non specific IP and RA thymic teratoma susp.
7月11日	70歳、女性	355891	佐々木朝子	馬淵浩輔	Hypereosinophilic syndrome with sclerosing cholangitis HT
7月18日	43歳、男性	355505	菊池有史	高木 元	DIC due to disseminated varicella zoster virus infection with fulminant hepatitis, Post MDT state for leg ulcer due to chronic GVHD
9月26日	69歳、女性	356721	及川紘太郎	小原俊彦	CHF due to (Hereditary) Spherocytosis with HHD sus DM (type 2)
10月24日	70歳、男性	357550	川中／安田	田中古登子	RI leg ulcer due to Churg-Strauss syndrome ASO
11月28日			村賀香名子	青木 聡	Evans syndrome
平成19年					
1月23日	59歳、女性	364464	鶴見昌史	浅井邦也	CHF due to MVP(P3. Sellers III) caused by Chordae rupture Coronary artery-left ventricular fistula (#4PD→LV), (#9→LV)
1月23日	52歳、女性	366111	小橋啓一	浅井邦也	Coronary artery fistula (pulmonary artery type) HL
3月27日	67歳、女性	368179	森澤太一郎	小原俊彦	Mitochondrial Encephalomyopathy

CPC

年月日	症 例	病歴番号	担 当	司 会	臨 床 診 断 病 理 診 断
平成18年					
6月26日	40歳、女性		吉田明日香	辰口篤志	Secondary myocarditis due to polymyositis with af and sustained VT post ICD implantation state. PBC
10月2日	75歳、女性		野村浩一	坂本静樹	遷延性意識障害、糖尿病性腎症、播種性血管内凝固症候群 敗血症(細菌性心内膜炎、脳髄膜炎、脾炎)
平成19年					
2月5日	50代、男性		兵働英也	福岡長知	骨髓異形成症候群、肺炎、ヘモクロマトーシス Myelodysplastic syndrome, refractory anemia with hemosiderosis

CC： 毎週火曜日 午前8時～

場所： 付属病院プレハブ棟4階中会議室 *変更になる場合もあります。医局でご確認下さい。

CPC： 年3回 日時・場所については医局までお問い合わせください。

学位取得者

氏名	取得年月日 (学位記番号)	論文名	雑誌名, 巻, 頁, 発行年
山中 博之	平成18年4月17日 乙1811号	Relationship between the Mismatch of ^{123}I -BMIPP and ^{201}Tl Myocardial Single-photon Emission Computed Tomography and Autonomic Nervous System Activity in Patients with Acute Myocardial Infarction	Int Heart J 47(2):193-207:2006
緒方 憲一	平成18年5月12日 乙1814号	ビルジカイニド静注によるBrugada型心電図誘発試験 —不完全右脚ブロック症例における検討	心電図 26(2):153-161:2006.5
川嶋 修司	平成18年6月 乙1817号	Prophylactic Hemodialysis Does Not Prevent Contrast-Induced Nephropathy After Cardiac Catheterization in Patients With Chronic Renal Insufficiency	Circ J 70(5):553-559:2006
清宮 康嗣	平成18年7月19日 乙1818号	Significance of Plaque Disruption Sites in Acute Coronary Syndrome	J Nippon Med Sch 73(3):141-148:2006
淀川 顕司	平成18年11月10日 乙1827号	High Frequency Potentials Developed in Wavelet Transformed Electrocardiogram as a Novel Indicator for Detecting Brugada Syndrome	Heart Rhythm 3(12):1435-44:2006
稲見 茂信	平成18年12月20日 乙1829号	Effects of statins on the circulating oxidized low-density Lipoprotein in patients with hypercholesterolemia	Jap Heart J 45(6):969-975:2004
丸山 光紀	平成19年1月17日 乙1830号	Mapping-guided ablation of the cavotricuspid isthmus: A novel simplified approach to radiofrequency catheter ablation of isthmus-dependent atrial flutter	Heart Rhythm 3(6):665-673:2006
高木 郁代	平成19年1月17日 乙1832号	Chronic Direct Stimulation of Adenylyl Cyclase Induces Cardiac Desensitization to Catecholamine and Beta-Adrenergic Receptor Downregulation in Rabbits	J Cardiovasc Pharmacol 48(5):223-230:2006
亀井真一郎	平成19年1月17日 乙1833号	Acute Effects on Signal-Averaged Electrogram Parameters and Suppressing Premature Ventricular Contractions in Single or Combined Use of Class I Antiarrhythmic Drugs	J Arrhythmia 22(3):155-160:2006
大野 忠明	平成19年2月19日 乙1835号	Utility of Combined Assessment of Coronary Flow Velocity and Myocardial Perfusion During Low-dose Dobutamine Stress Echocardiography in the Detection of Left Anterior Coronary Artery Disease	J Echocardiogr 4(3):69-77:2006
小川 晃生	平成19年2月19日 乙1836号	Difference in Elevation of N-terminal pro-BNP and Conventional Cardiac Markers Between Patients With ST elevation versus Non-ST elevation Acute Coronary Syndrome	Circ J 70(11):1372-78:2006
眞鍋 宏美	平成19年3月9日 乙1842号	Analysis of Alteration of Blood Pressure Response to Exercise through Baroreflex	J Nippon Med Sch 74(2):123-130:2007
今泉 孝敬	平成19年3月9日 乙1843号	Dynamics and Source of Endothelin-1 and Interleukin-6 Following Coronary Reperfusion in Patients with Acute Myocardial Infarction	J Nippon Med Sch 74(2):131-147:2007
土田 貴也	平成19年3月9日 乙1844号	Relationship between Plasma Norepinephrine at Peak Exercise and ^{123}I -MIBG Imaging of the Heart and Lower Limbs in Heart Failure	J Nippon Med Sch 74(2):114-122:2007

論文(原著、綜説、症例報告)

著者、所属	論文名	雑誌	年	巻号	開始頁	終了頁
原著						
Hayashi M, Kobayashi Y, Iwasaki Y, Morita N, Miyauchi Y, Kato T, Takano T	Novel mechanism of postinfarction ventricular tachycardia originating in surviving left posterior purkinje fibers	Heart Rhythm	2006	3(8)	908	918
Ikeda T1), Yoshino H1), Sugi K2), Tannno K3), Shimizu H4), Watanabe J5), Kasamaki Y6), Yoshida A7), Kato T {1)Second Department of Internal Medicine,Kyorin University}	Predictive Value of Microvolt T-Wave Alternans for Sudden Cardiac Death in Patients With Preserved Cardiac Function After Acute Myocardial Infarction	J Am Coll Cardiol	2006	48(11)	2268	2274
Iwasaki Y, Yamashita T1), Sekiguchi A1), Hatano S1), Sagara K1), Iimura H1), Fu Long-tail), Kobayashi Y, Kato T, Takano T {1)The Cardiovascular Institute, Tokyo}	A method for the simultaneous analysis of mRNA levels of multiple cardiac ion channels with a multi-probe RNase protection assay	Europace	2006	8(11)	1011	1015
Kamei S, Kato T, Ohara T, Kanemura M, Kuroki Shin-ichi, Takano T	Acute Effects on Signal-Averaged Electrogram Parameters and Suppressing Premature Ventricular Contractions in Single or Combined Use of Class I Antiarrhythmic Drugs	J Arrhythmia	2006	22(3)	155	160
Kato K, Sato N, Yamamoto T, Fujita N, Miyagi Y, Tanaka K, Takano T1) {1)First Department of Internal Medicine}	Initial experience of removal of intra-aortic balloon pumps with Angio-seal	J Invas Cardiol	2006	18(3)	130	132
Kato K1), Sato N1), Fujita N, Yamamoto T1), Iwasaki Yu-ki1), Yodogawa K1), Takayama M, Tanaka K1), Takano T {1)Intensive and Cardiac Care Unit}	Combined Therapy with Percutaneous Coronary Intervention and Percutaneous Aortic Valvuloplasty under Mechanical Support for an Elderly Patient with Cardiogenic Shock	J Nippon Med Sch	2006	73(3)	158	163
Kawashima S, Takano H, Iino Y1), Takayama M, Takano T {1)Second Departments of Internal Medicine}	Prophylactic Hemodialysis Does Not Prevent Contrast-Induced Nephropathy After Cardiac Catheterization in Patients with Chronic Renal Insufficiency	Circ J	2006	70(5)	553	558
Kurita A1), Takase B2), Okada K, Horiguchi Y1), Abe S1), Kusama Y, Atarashi H {1)Sanai Hospital, 2)National Defense Medical College Research Institute}	Effects of music therapy on heart rate variability in elderly patients with cerebral vascular disease and dementia.	J Arrhythmia	2006	22(3)	161	166
Maruyama M, Kobayashi Y, Miyauchi Y, Iwasaki Yu-ki, Morita N, Miyamoto S1), Tadera T1), Ino T1), Atarashi H1), Kato T, Takano T {1)Tama-Nagayama Hospital}	Mapping-guided ablation of the cavotricuspid isthmus: A novel simplified approach to radiofrequency catheter ablation of isthmus-dependent atrial flutter	Heart Rhythm	2006	3(6)	665	673
Mizuno K, The Japanese Coronary Artery Diseases (JCAD)Study I	Current Status of the Background of Patients With Coronary Artery Disease in Japan	Circ J	2006	70(10)	1256	1262

論文(原著、綜説、症例報告)

著者、所属	論文名	雑誌	年	巻号	開始頁	終了頁
Nagai R1), Atarashi H, The Japanese Coronary Artery Disease(JCAD) Study Investigators {1)Department of Cardiovascular Medicine, Graduate School of Medicine, University of Tokyo}	Current status of the background of patients with coronary artery disease in Japan :The Japanese Coronary Artery Disease Study(The JCAD Study)	Circ J	2006	70(10)	1256	1262
Nakamura H1), Arakawa K1), Itakura H1), Kitabatake A1), Goto Y1), Toyota T1), Nakaya N1), Nishimoto S1), Muranaka M1), Yamamoto A1), Mizuno K, Ohashi Y1), MEGA Study G {1)MEGA Study Group}	Primary prevention of cardiovascular disease with pravastatin in Japan (MEGA Study): a prospective randomised controlled trial	The Lancet	2006	368	1155	1163
Ogawa A, Seino Y, Yamashita T, Ogata Ken-ichi, Takano T	Difference in elevation of N-terminal Pro-BNP and Conventional Cardiac Markers Between Patients with ST Elevation vs Non-ST Elevation Acute Coronary Syndrome	Circ J	2006	70(11)	1372	1378
Ohno T, Honma H, Takayama M, Munakata K, Takano T, Matsuzaki T1) {1)Department of Physiological Examination}	Utility of Combined Assessment of Coronary Flow Velocity and Myocardial Perfusion During Low-dose Dobutamine Stress Echocardiography in the Detection of Left Anterior Coronary Artery Disease	J Echocardiogr	2006	4(3)	69	77
Okishige K1), Fukunami M, Kumagai K, Atarashi H, Inoue H, for the Pilsicainide Suppression Trial for Persistent Atrial Fibrillation III {1)Yokohama City Bay Red Cross Hospital}	Pharmacological conversion of persistent atrial fibrillation into sinus rhythm with oral pilsicainide:pilsicainide suppression trial for persistent atrial fibrillationII	Circ J	2006	70(6)	657	661
Ono T, Saitoh H, Itakura S1), Tateoka K, Ono I, Hnatkova K2), Kobayashi Y, Takayama M, Atarashi H3), Katoh T, Takano T, Malik M2) {1)Musashi-kosugi Hospital, 2)St George's University of London, 3)Tama-nagayama Hospital}	Characteristics of a New Repolarization Descriptor Substituted for T-Wave Morphology Analysis in Patients with Cardiomyopathy and Myocardial Infarction	Circ J	2006	70(10)	1322	1326
Otsuka T1), Ibuki C1), Suzuki T1), Ishii K1), Kodani E1), Atarashi H1), Kishida H, Takano T {1)Tama-Nagayama Hospital}	Vasodilatory effect of subsequent administration of fasudil, a rho-kinase inhibitor, surpasses that of nitroglycerin at the concentric coronary stenosis in patients with stable angina pectoris	Circ J	2006	70(4)	402	408
Pak HN1), Kim YH1), Lim HE1), Chou CC2), Miyauchi Y, et al) {1)Korea University Cardiovascular Center, 2)Division of Cardiology, Department of Medicine, Cedars-Sinai Medical Center and David Geffen School of Medicine}	Role of the posterior papillary muscle and purkinje potentials in the mechanism of ventricular fibrillation in open chest dogs and swine:effects of catheter ablation	J Cardiovasc Electrophysiol	2006	17(7)	777	83
Sato N1), Yamamoto T1), Akutsu Kohichi, Fujita N, Asai K, Takayama M, Takano T, Tanaka K1) {1)Intensive and Cardiac Care Unit}	Arterial baroreflex sensitivity is a good predictor of inotropic responses to a phosphodiesterase inhibitor in human heart failure	Clin Cardiol	2006	29(6)	263	267

論文(原著、綜説、症例報告)

著者、所属	論文名	雑誌	年	巻号	開始頁	終了頁
Seimiya K1), Inami S1), Takano M1), Ohba T1), Sakai S1), Takano T, Mizuno K1) {1)Cardiovascular Center, Chiba-Hokusho Hospital}	Significance of Plaque Disruption Sites in Acute Coronary Syndrome	J Nippon Med Sch	2006	73(3)	141	148
Shimizu Y1), Kumita S1), Cho K1), Toda M1), Mizumura S1), Tanaka K, Takano T, Kumazaki T1) {1)Department of Clinical Radiology}	Evaluation of No-Reflow Phenomenon Using ^{201}Tl ^{123}I -BMIPP Dual-isotope Myocardial SPECT	J Nippon Med Sch	2006	73(5)	258	264
Takagi I, Nejima J, Kiuchi K, Takagi G, Takano T	Chronic Direct Stimulation of Adenylyl Cyclase Induces Cardiac Desensitization to Catecholamine and Beta-Adrenergic Receptor Downregulation in Rabbits	J Cardiovasc Pharmacol	2006	48(5)	223	230
Takano M, Ohba T, Inami S, Seimiya K, Sakai S, Mizuno K	Angioscopic differences in neointimal coverage and in persistence of thrombus between sirolimus-eluting stents after a 6-months implantation	Eur Heart J	2006	27	2189	2195
Takase B1), Kusama Y, Nishizaki M2), Koide Y3), Li S4), et al {1)National Defense Medical College Research Institute, Division of Biomedical Engineering and Internal Medicine-1}	Detecting Restenosis after Percutaneous Coronary Intervention Using Exercise-Stress Electrocardiogram Findings Including QT Dispersion	J Arrhythmia	2006	22(4)	209	214
Yamamoto A1), Hosoya T, Takahashi N, Iwahara S2), Munakata K {1)Department of Radiology, 2)第一ラジオアイソープ}	Quantification of left ventricular regional functions using ECG-gated myocardial perfusion SPECT- Validation of left ventricular systolic functions	Annals of Nuclear Medicine	2006	20	449	456
Yamamoto T, Terajima K, Kato K, Iwasaki YK, Miyagi Y, Sato N, Takeda S, Tanaka K, Takano T	Transient leukocytopenia associated with a steep surge of pro-inflammatory cytokines in a patient with severe cardiogenic pulmonary edema.	Intern Med	2006	45(20)	1153	1155
Yamamoto T1), Sato N1), Yasutake M, Takagi H1), Morita N1), Akutsu K1), Fujii M1), Fujita N1), Tanaka K1), Takano T {1)Intensive and Coronary Care Unit}	B-type natriuretic peptide as an integrated risk marker in non-ST elevation acute coronary syndromes	J Cardiol	2006	111(2)	224	230
Yamashita T1), Ogawa S1), Aizawa Y1), Atarashi H, Inoue H1), et al on behalf of the J-RHYTHM II I {1)on behalf of the J-RHYTHM II Investigators}	Randomized study of angiotensin II type 1 receptor blocker vs dihydropyridine calcium antagonist for the treatment of paroxysmal atrial fibrillation in patients with hypertension-The J-RHYTHM II study design for the investigation of upstream therapy for atrial fibrillation	Circ J	2006	70(10)	1318	1321
Yodogawa K, Morita N, Kobayashi Y, Takayama H, Ohara T, Katoh T, Takano T	High-frequency potentials developed in wavelet-transformed electrocardiogram as a novel indicator for detecting Brugada syndrome	Heart Rhythm	2006	3(12)	1436	1444

論文(原著、綜説、症例報告)

著 者、所 属	論 文 名	雑 誌	年	巻号	開始頁	終了頁
Miyamoto K, Nishigami K, Nagaya N, Akutsu K, Chiku M, et al (National Cardiovascular Cenetr)	Unblinded Pilot Study of Autologous Transplantation of Bone Marrow Mononuclear Cells in Patients with Thromboangiitis Obliterans	Circulation	2006	114(24)	2679	84
Atarashi H, Ogawa S1), Inoue H2), Hamada C3), for the Flecainide Atrial Fibrillation Investigators {1}Cardiopulmonary Division,Department of Medicine,Keio University School of medicine}	Dose-response effect of flecainide in patients with symptomatic paroxysmal atrial fibrillation and/or flutter monitored with trans-telephonic electrocardiography:a multicenter,placebo-controlled,double-blind trial.	Circ J	2007	71(3)	294	300
Minami M1), Ishikawa Y1), Matumoto Y1), Atarashi H, Atarashi K1) {1}Tohma Health Evaluation and Promotion Center}	Three-minute ECG recording and arrhythmia detection in the evalution and promotion of health	Intern Med	2007	46(5)	201	205
Shirakabe A, Takano H, Nakamura S, Kikuchi A, Sasaki A, Yamamoto E, Kawashim S, Takagi G, Fujita N, Aoki S, Asai K, Yoshikawa M1), Kato K1), Yamamoto T1), Takayama M, Takano T {1}Coronary Care Unit}	Coronary Perforation During Percutaneous Coronary Intervention	Int Heart J	2007	48(1)	1	9
Takano M, Mizuno K	Late coronary thrombosis in a sirolimus-eluting stent due to the lack of neoitimal coverage	Eur Heart J	2007	27(10)	1133	
Tara S, Miyamoto M, Asoh S1), Ishii N1), Yasutake M, Takagi G, Takano T, Ohta S1) {1}Department of Biochemistry and Cell Biology,Institute of Development and Aging Sciences}	Transduction of the anti-apoptotic PTD-FNK protein improves the efficiency of transplantation of bone marrow mononuclear cells	J Mol Cell Cardiol	2007		Epub	
Yamamoto A1), Takahashi N, Munakata K, Hosoya T2), Shiiba M1), et al {1}department of radiology, 2)第一ラジオアイソトープ研究所}	Global and regional evaluation of systolic and diastolic left ventricular temporal parameters using a novel program for GCG-gated myocardial perfusion SPECT-Validation by comarison with gated equilibrium radionuclide angiography and speckle-tracking radial from echocardiography-	Annals of Nuclear Medicine	2007	21	115	121
佐藤直樹, 山本剛, 岩崎雄樹, 平澤泰宏, 加藤浩司, 吉川雅智, 田中啓治, 高野照夫1) {1}内科学第1}	腎保護効果からみたナトリウム利尿ペプチドとフロセミド併用療法の問題点	ICUとCCU	2006	30(9)	651	656
仁ノ内絵里1), 長田和士1), 金子貴俊2), 鈴木聡子2), 櫻田大也1), 佐藤信範1), 岸田浩, 上田志朗1) {1}千葉大学大学院薬学研究院 医薬品情報学研究室, 2)データインデックス株式会社}	薬剤性QT延長症候群に関するデータベースの構築	医薬品情報学	2006	7(4)	66	70
水野博司1), 赤石論史1), 小池幸子1), 百束比古1), 宮本正章 {1}形成外科学}	虚血性難治性皮膚潰瘍に対する骨髄単核球導入コラーゲンマトリックスの臨床応用	日本形成外科学会会誌	2006	26(11)	726	732
西崎光弘1), 杉薫1), 泉田直己1), 鎌倉史郎1), 杉原直彦1), 青沼和隆1), 新博次1), 他 {1}日本心電学会 Brugada症候群自動診断ワーキンググループ}	本邦におけるBrugada症候群に対する心電図自動診断基準	心電図	2006	26(5)	758	767

論文(原著、綜説、症例報告)

著者、所属	論文名	雑誌	年	巻号	開始頁	終了頁
2. 林富貴雄、竹下聡、坪宏一、野々木宏 (国立循環器病センター)	間歇性跛行肢に対する運動療法の有用性	J Jpn Coll Angiol	2006	46(5)	539	542
上野亮, 丸山光紀, 小林義典, 宮内靖史, 林明聡, 岩崎雄樹, 平澤泰宏, 阿部純子, 谷口宏史, 堀江格, 淀川顯司, 館岡克彦, 岡崎怜子, 山本哲平, 村田広茂, 小原俊彦, 平山悦之, 高山守正, 加藤貴雄, 高野照夫, 新博次 1) {1}多摩永山病院内科}	閉塞性肥大型心筋症に対する経皮的中等心筋焼灼術後にみられたHV時間の交互現象および第4相ブロックとB遮断薬の効果	心臓	2006	38(4)	95	102
宮内靖史, 小林義典, 谷口宏史, 堀江格, 丸山光紀, 平澤泰宏, 阿部純子, 館岡克彦, 上野亮, 岡崎怜子, 小原俊彦, 篠田暁与, 加藤貴雄, 高野照夫, 淀川賢司1), 岩崎雄樹1), 宮城泰雄1), 山本剛1), 田中啓治1), 新博次2) {1}集中治療室, 2)多摩永山病院内科}	Electrical stormのトリガーとなる心室性期外収縮のElectroanatomical Mapping	臨床心臓電気生理	2006	29	157	164
竹田晋治1), 赤田信二1), 寺嶋克幸1), 鈴木規仁1), 青戸泰二2), 山本保博3), 田中啓治, 坂本篤裕1) {1}麻酔科, 2)中央検査部, 3)救急医学}	非侵襲的陽圧換気によるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌検出頻度減少の効果	日集中医誌	2007	14(1)	91	92

綜説

加藤浩司	患者管理上に留意点 1) 集中治療における循環管理 (特集 集中治療領域における安全管理)	ICUとCCU	2006	30(6)	431	438
加藤浩司, 高山守正1) {1}内科学第1}	頸脈の緊急処置指針 (救急・集中治療ガイドライン最新の診療指針)	救急・集中治療	2006	18(5・6)	691	693
岸田浩	無症候性心筋虚血	内科学	2006	1	812	813
岩崎雄樹	心室頻拍・心室細動の急性期薬物治療……理論に乗った使用法 (特集: 心室頻拍・心室細動)	ICUとCCU	2006	30(7)	487	492
吉川雅智1), 高山守正 {1}集中治療室}	急性冠症候群 (ST上昇型): 急性心筋梗塞	medicina	2006	43(9)	1448	1453
宮内靖史	フローチャートで理解する3次元心臓内マッピング法	Heart Nursing 2006	2006	19(9)	68	74
牛島明子, 福岡長知, 馬淵浩輔	外用薬の効果と使い方, その特徴, 作用機序と副作用 1) 貼付剤 a) 狭心症 (特集: 高齢者におけるドラッグデリバリーシステム・特に外用薬を中心に)	Geriatr Med	2006	44(5)	619	624
高山守正	(閉塞性肥大型心筋症 state of art) 経皮的中等心筋焼灼術 (PTSMA) の治療効果と臨床的意義	心臓	2006	38(4)	330	334
高山守正	ガイドライン2005 4.胸痛	日内誌	2006	95(12)	64	72
高野仁司, 川嶋修司, 山本英世, 清野精彦	腎機能障害患者に対する経皮的冠動脈インターベンション	Angiology Frontier	2006	15(4)	333	338
山本剛	術中発症肺血栓塞栓症の治療: 経カテーテル治療 (特集: 周術期肺血栓塞栓症)	臨床麻酔	2006	30(6)	967	972
山本剛, 高野照夫1) {1}内科学第1}	内科的(潜在的)危険因子を識る (特集: 急性肺血栓塞栓症; その診断から治療へ)	Heart View	2006	10(7)	708	710
山本剛, 田中啓治	急性冠症候群の治療指針 (救急・集中治療ガイドライン: 最新の診療指針)	救急・集中治療	2006	18(5・6)	708	710
山本剛	大動脈疾患救急ネットワークの構築	ICUとCCU	2006	30(10)	885	887

論文(原著、綜説、症例報告)

著者、所属	論文名	雑誌	年	巻号	開始頁	終了頁
山本剛1), 高野照夫 {1)集中治療室}	診断・治療法の進歩 (特集: 急性冠症候群)	日本臨床	2006	64(4)	617	623
小林義典	重症心室性不整脈と電気生理学的検査: その意義と治療への応用	Med Practice	2006	23(5)	799	802
上野亮, 加藤貴雄	頻脈性不整脈の治療 頻脈性不整脈の薬物療法: 心室性不整脈を中心に	クリニカ	2006	33(5)	19	27
新博次	Brugada症候群の最新知見	医学のあゆみ	2006	217(6)	636	640
水野杏一	不安定ブランクの画像評価	BIO Clinica	2006	21(6)	52	58
水野杏一	冠動脈局所病変・基礎から臨床へ・血管内視鏡・不安定ブランクの同定を指して	虚血性心疾患	2006	3(10)	1727	1731
水野杏一, 酒井俊太	血管内視鏡	Heart View	2006	10	170	171
水野杏一	試験組織とその機能	Progress in Medicine	2006	2006(増刊)	20	23
清野精彦, 小川晃生, 山下照代, 藤田進彦, 緒方憲一	バイオマーカー: マルチ・バイオマーカーアプローチの構築	日本臨床	2006	64(4)	691	699
清野精彦	新しい心筋マーカーにより明らかにされてきたこと: minor myocardial damageとongoing myocardial damage	東京都医師会雑誌	2006	59(6)	696	702
清野精彦	マルチバイオマーカー・ストラテジー	心臓	2006	38(7)	665	665
清野精彦	急性心筋梗塞の発症から収容, 診断過程における性差	性差と医療	2006	3(9)	27	33
石井健輔, 新博次	心電図の読み方 不整脈 房室ブロック	診断と治療	2006	94(9)	1743	1749
竹永清人, 宗像一雄	第IV章 主な救急疾患: 心筋炎	日医師会誌	2006	135(1)	317	318
内藤博昭1), 由谷親夫2), 橋本弘行3), 内山真一郎4), 水野杏一, 他 {1) 国立循環器病センター放射線部門, 2) 岡山理大理, 3) 国立病院機構大阪医療センター, 4) 東京女子医大医神経内科}	不安定ブランクの機能画像診断	循環器病研究の進歩	2006	27(1)	9	16
福岡長知, 高山守正	運動負荷試験 (特集: 慢性心不全治療の進歩)	日本臨床	2006	64(5)	890	895
平山悦之, 高野照夫	狭心症	実践 救急医療	2006	135(1)	308	309
堀江格, 新博次	ブルガダ症候群・QT延長症候群の治療戦略	Modern Rhysician	2006	26(10)	1581	1586
木股仲恒1), 高野雅充, 酒井俊太, 水野杏一 {1) 付属病院内科学第1}	血管内視鏡	循環器科	2006	59(Suppl3)	351	357
坪宏一 (国立循環器病センター)	症状から見た血管疾患辞典 意識障害/大動脈	Vascular Lab	2006	3(増刊)	206	208
坪宏一, 田中啓治	開存B型解離慢性期における治療戦略		2006	46(2)	61	66
坪宏一 (国立循環器病センター)	こう書く! 疾患別・症候別検査レポート 医師が知りたい検査レポート 大動脈/内科	Vascular Lab	2007	4(増刊)	15	20
畑典武	エコノミークラス症候群 (深部静脈血栓症)	medical forum	2007	11(1)	31	31

論文(原著、綜説、症例報告)

著者、所属	論文名	雑誌	年	巻号	開始頁	終了頁
岩崎雄樹, 加藤貴雄	集中治療における不整脈の管理・監視(モニター)と予測・予防・治療-II.速やかに治療すべき不整脈 3.危険な心室性期外収縮と心室頻拍	ICUとCCU	2007	31(1)	55	59
吉田明日香, 清野精彦	心疾患患者の予後決定におけるCKDの重要性	治療学	2007	41(2)	65	69
新博次	Burugada症候群の予後:欧米の登録研究成績	Heart View	2007	11(2)	178	182
水野杏一	血管内視鏡検査	循環器病の救急診療マニュアル	2007	2	127	135
水野杏一, 宮本倫聡	我が国でRevised ATPIIIを適用できるか	Heart View	2007	3	26	29
清野精彦	心筋梗塞生化学マーカー	臨床と研究	2007	84(1)	27	33
清野精彦	慢性心不全における中枢型睡眠時無呼吸について	日医大医会誌	2007	3(1)	34	38
中田淳, 佐藤直樹	失神を主訴として来院した慢性透析患者	Medical Practice	2007	24(5)	926	932
保坂純郎1), 日高史貴1), 小野澤志郎1), 高木郁代, 汲田伸一郎1) {1)放射線科}	EVL (endovenous laser treatment): 出力の血管閉塞率と合併症に及ぼす影響	静脈学	2007	18(1)	7	11

症例報告

Ishii K, Kodani E, Miyamoto S, Hosone M1), Ogata K, Sato W, Matsumoto S, Tadera T, Ibuki C, Kusama Y, Atarashi H {1)Division of Surgical Pathology, Tama-Nagayama Hospital}	Pacemaker contact dermatitis: the effective use of a polytetrafluoroethylene (PTFE) sheet	PACE	2006	29(11)	1299	1302
Kamiya M, Nakagomi A, Tokita Y, Yasutake M, Kusama Y, Takayama M, Takano T	Type ICD36 Deficiency Associated With Metabolic Syndrome and Vasospastic Angina: A Case Report	J Cardiol	2006	48(1)	41	44
Muramatsu H1), Takayama M, Takano T {1)Department of Internal Medicine, Kasugai Rehabilitation Hospital}	Rate-Responsive Pacemaker Mode Benefits Stroke Rehabilitation Patients with Orthostatic Hypotension: Two Cases of Cardiogenic Cerebral Infarction	Jpn J Clin Physiol	2006	36(5)	213	222
Ogano M, Iwasaki Yu-ki, Takano H, Takayama M, Takano T, Fukuda Y1) {1)First Department of Pathology}	Successful colectomy for the treatment of repetitive bleeding from colonic angiodysplasia in a patient with Heyde syndrome	Intern Med	2006	45(6)	355	358
Yamamoto T1), Terajima K1), Kato K1), Iwasaki Yu-ki1), Miyagi Y1), Sato N1), Takeda S1), Tanaka K1), Takano T {1)Intensive and Cardiac Care Unit}	Transient Leukocytopenia Associated with a Steep Surge of Proinflammatory Cytokines in a Patient with Severe Cardiogenic Pulmonary Edema	Intern Med	2006	45(20)	1153	1155
Yokose N, Dan K1) {1)付属病院血液内科}	Pasteurella multocida sepsis, due to a scratch from a pet cat, in a post-chemotherapy neutropenic patient with non-Hodgkin lymphoma.	Int J Hematol.	2007	85	146	148

論文(原著、綜説、症例報告)

著者、所属	論文名	雑誌	年	巻号	開始頁	終了頁
Yamamoto E, Takano H, Takayama M	Percutaneous Coronary Intervention Under the Rigid Restriction of Contrast Media dose in Patients with Chronic Renal Insufficiency	J Invasive Cardiol	2006	18(6)	169	172
Okada S1), Kuwako T, Nakajo H, Ishihara M, Uchiyama F, Obo R, Yokose N, Hamamoto M {1)千葉北総病院放射線科}	Two Cases of Subacute Combined Degeneration: Magnetic Resonance Findings	J Nippon Med Sch	2006	73	328	331
宮地秀樹1), 雪吹周生1), 加藤浩司1), 吉田博史1), 石井健輔1), 小谷英太郎1), 草間芳樹1), 新博次1), 坪宏一, 山本剛, 田中啓治, 田島廣之2) {1)多摩永山病院内科, 2)放射線科}	静脈血栓塞栓症にて発症し, 下大静脈フィルター直下の難治性大量血栓を血管内インターベンションにて治療し得た先天性アンチトロンビン欠損症の1例	心臓	2006	38(8)	796	803
小澤明子1), 水谷康彦1), 秋元直彦1), 北嶋俊寛1), 横澤裕美1), 田村浩一2), 杉崎祐一2), 新田隆3), 岡崎怜子, 清野精彦 {1)医学部学生, 2)病理部, 3)外科学第2}	心房細動根治術で切除された左心耳組織所見から心臓サルコイドーシスの診断に至った1例	診断病理	2006	23(3)	208	211
新真理子1), 山本剛1), 小串聡子1), 村井綱児1), 吉川雅智1), 岩崎雄樹1), 佐藤直樹1), 田中啓治1), 高野仁司, 高山守正, 高野照夫, 中澤賢2), 田島廣之2), 隈崎達夫2), 神谷仁孝3) {1)日本医科大学付属病院集中治療室, 2)同放射線科, 3)稲田登戸病院循環器科}	肺癌様の肺陰影を呈した肺梗塞の1例	Ther Res	2006	27(6)	1017	1019
藤本啓志, 宮本正章, 高木元, 山下照代, 水野博司1), 小池幸子1), 高野照夫 {1)形成外科学}	医療用ウジを用いた多剤耐性緑膿菌(MDRP)感染糖尿病性壊疽の治療	糖尿病	2006	49(7)	517	521
緒方清行1), 水越元気2), 田村浩一3), 加藤貴雄, 岸田浩, 清野精彦, 駒場祐一2), 吉村明修4), 福岡長知, 工藤翔二4), 福田悠5), 坂本静樹2), 津久井拓1), 本間博, 功刀しのぶ5), 弦間明彦4), 藤野鉄平2) {1)内科学第3, 2)内科学第2, 3)病理部, 4)内科学第4, 5)病理学第1}	感染性心内膜炎の発症後, 脳梗塞をい合併しびまん性肺胞障害にて死亡した1例	内科	2006	98(2)	357	368
中村有紀1), 四倉寛子2), 加藤雅彦1), 中田淳, 田中啓治, 林宏光3) {1)日本医科大学研修医, 2)藤沢市民病院研修医, 3)日本医科大学放射線医学}	多発性囊胞腎に合併した急性大動脈解離の3例	日医大誌	2007	3(1)	25	29
研究報告						
高本真一、石丸新、上田裕一、大北裕、萩野均、数井暉久、加藤雅明、栗林幸夫、田林暁一、中野豊、松尾汎、宮田哲郎、吉田清、青鹿佳和、坪宏一、他	循環器病の診断と治療に関するガイドライン(2004・2005年度合同研究班研究報告)大動脈瘤、大動脈解離診療ガイドライン(2006年改訂版)	Circ J	2007	70(suppl4)	1569	1646

論文(原著、綜説、症例報告)

著 者、所 属	論 文 名	雑 誌	年	巻号	開始頁	終了頁
2005年度追加分						
高木元, 高木郁代, 清野精彦	3.心臓 Q20急性冠症候群の予知マーカーについて教えてください	血栓と循環	2005	13	81	85
高木元, 清野精彦	新しい心筋マーカーの有用性	総合臨床	2005		2499	2500
高木郁代, 清野精彦	1.心臓, 心原性浮腫	Vascular Lab	2006	3	58	62
岡崎怜子, 宮内靖史, 小林義典, 丸山光紀, 岩崎雄樹, 平澤泰宏, 阿部純子, 谷口宏史, 堀江格, 舘岡克彦, 上野亮, 小鹿野道雄, 篠田暁与, 小原俊彦, 平山悦之	冠静脈洞内の通電により焼灼に成功した僧帽弁置換術およびradial手術後心房頻拍の1例	心臓	2005	37(4)	115	122
岡崎怜子, 菊池有史, 平山悦之, 丸山光紀, 高木元, 高野仁司, 高山守正, 小林義典, 高野照夫, 高田大輔1), 金子朋広1), 飯野靖彦1), 片山泰朗1), 三石剛2), 川名誠司2) (1)内科学第二、2)皮膚科学)	コレステロール結晶塞栓症(CCE)ステロイド療法とLDLアフェレーシス併用の効果	日医大医会誌	2006	2(2)	115	120
高木元, 宮本正章, 安武正弘, 水野博司, 高木郁代, 高野仁司, 加藤浩司, 太良修平, 高野照夫	難治性虚血肢に対する自己骨髄幹細胞移植血管再生治療	リウマチ科	2006	35(2)		

著 書

著者、所属	論 文 名	図 書 名	出版社	年	開始	終了頁
著書						
高山守正	AED 自動体外式除細動器	AED 自動体外式除細動器	メディカルフロントインターナショナルリミテッド	2007		
編集						
高野照夫	ESC POCKET GUIDLINES (高野照夫, 清野精彦)	ESC POCKET GUIDLINES (高野照夫, 清野精彦)	ヘスコインターナショナル	2006		
坂本哲也1), 高山守正 {1)帝京大学医学部救命救急センター}	上級救命再講習テキスト (坂本哲也, 高山守正)	上級救命再講習テキスト (坂本哲也, 高山守正)	東京救急協会	2006		
坂本哲也1), 高山守正 {1)帝京大学医学部救命救急センター}	応急手当普及員再講習テキスト (坂本哲也, 高山守正)	応急手当普及員再講習テキスト (坂本哲也, 高山守正)	東京救急協会	2006		
分担						
Hata N	Air Ambulance System and AMI	Advances in Heart Disease	International Academy of Cardiology	2006	347	350
清野精彦, 高野照夫	急性心不全の薬物療法	心不全 - 診断・治療・管理 - (堀正二)	メジカルビュー社	2006	136	148
高山守正	経皮的中隔心筋焼灼術 (PTSMA)	心臓カテーテル (百村伸一)	メジカルビュー社	2006	136	143
宮内靖史	(心房性および心室性) 反復性興奮とは?	よくわかる臨床心臓電気生理 (沖重薫)	中外医学社	2006	25	29
宮内靖史	洞機能不全の診断 (1) 洞房伝導時間測定について	よくわかる臨床心臓電気生理 (沖重薫)	中外医学社	2006	32	35
宮内靖史	洞機能不全の診断 (2) 洞結節自動能評価法について	よくわかる臨床心臓電気生理 (沖重薫)	中外医学社	2006	36	39
宮内靖史	Triggered activityとは?	よくわかる臨床心臓電気生理 (沖重薫)	中外医学社	2006	86	88
宮内靖史	心房粗動: 通常型について	よくわかる臨床心臓電気生理 (沖重薫)	中外医学社	2006	117	119
宮内靖史	Incisional リエントリー性頻拍とは?	よくわかる臨床心臓電気生理 (沖重薫)	中外医学社	2006	129	132
宮内靖史	Supernormal conductionとは?	よくわかる臨床心臓電気生理 (沖重薫)	中外医学社	2006	171	173
宮内靖史	T Wave alternansとは?	よくわかる臨床心臓電気生理 (沖重薫)	中外医学社	2006	188	191
宮内靖史	Torsades de pointesとは?	よくわかる臨床心臓電気生理 (沖重薫)	中外医学社	2006	192	194
宮本正章	糖尿病フットケアハンドブック (内村 功)	糖尿病フットケアハンドブック (内村功)	シュプリンガー・ジャパン	2006		
横山広行, 高野照夫	循環動態のモニタリング	内科学 (金澤一郎, 北原光夫, 山口徹, 小俣政男)	医学書院	2006	656	658
高野仁司, 清野精彦	心臓カテーテル検査, 冠動脈造影	虚血性心疾患 (井上博, 増山理, 川名正敏)	南江堂	2006	87	98
清野精彦	虚血性心疾患の生化学的指標 特に急性冠症候群について	虚血性心疾患 (井上博, 増山理, 川名正敏)	南江堂	2006	79	86

著 書

著者、所属	論文名	図 書 名	出版社	年	開始	終了頁
高山守正	ECC(救急心血管治療)ハンドブック2005(岡田和夫, 笠置宏, 中澤 誠, 宮坂勝之)	ECC(救急心血管治療)ハンドブック2005(岡田和夫, 笠置宏, 中澤誠, 宮坂勝之)	中山書店	2006		
清野精彦	急性心不全	2007今日の治療指針(山口徹, 北原光夫, 福井次矢)	医学書院	2007	274	276
高山守正	経皮的中隔心筋焼灼術(PTSMA)	心筋症(松森昭)	メジカルビュー社	2007	317	325
高山守正	閉塞性肥大型心筋症における僧帽弁逆流へのアプローチ	弁膜症を解く(山本一博, 別府慎太郎)	文光堂	2007	303	305
小林義典	イラストで学ぶ心臓ペースメーカー(庄田守男, 小林義典, 新田 隆)	イラストで学ぶ心臓ペースメーカー(庄田守男, 小林義典, 新田隆)	医学書院	2007		
上野亮	イラストで学ぶ心臓ペースメーカー(庄田守男, 小林義典, 新田 隆)	イラストで学ぶ心臓ペースメーカー(庄田守男, 小林義典, 新田隆)	医学書院	2007		
岡崎伶子	イラストで学ぶ心臓ペースメーカー(庄田守男, 小林義典, 新田 隆)	イラストで学ぶ心臓ペースメーカー(庄田守男, 小林義典, 新田隆)	医学書院	2007		
小野卓哉	イラストで学ぶ心臓ペースメーカー(庄田守男, 小林義典, 新田 隆)	イラストで学ぶ心臓ペースメーカー(庄田守男, 小林義典, 新田隆)	医学書院	2007		
小原俊彦	イラストで学ぶ心臓ペースメーカー(庄田守男, 小林義典, 新田 隆)	イラストで学ぶ心臓ペースメーカー(庄田守男, 小林義典, 新田隆)	医学書院	2007		
平山悦之	イラストで学ぶ心臓ペースメーカー(庄田守男, 小林義典, 新田 隆)	イラストで学ぶ心臓ペースメーカー(庄田守男, 小林義典, 新田隆)	医学書院	2007		
丸山光紀	イラストで学ぶ心臓ペースメーカー(庄田守男, 小林義典, 新田 隆)	イラストで学ぶ心臓ペースメーカー(庄田守男, 小林義典, 新田隆)	医学書院	2007		
宮内靖史	イラストで学ぶ心臓ペースメーカー(庄田守男, 小林義典, 新田 隆)	イラストで学ぶ心臓ペースメーカー(庄田守男, 小林義典, 新田隆)	医学書院	2007		
村田広茂	イラストで学ぶ心臓ペースメーカー(庄田守男, 小林義典, 新田 隆)	イラストで学ぶ心臓ペースメーカー(庄田守男, 小林義典, 新田隆)	医学書院	2007		
八島正明	イラストで学ぶ心臓ペースメーカー(庄田守男, 小林義典, 新田 隆)	イラストで学ぶ心臓ペースメーカー(庄田守男, 小林義典, 新田隆)	医学書院	2007		
山本哲平	イラストで学ぶ心臓ペースメーカー(庄田守男, 小林義典, 新田 隆)	イラストで学ぶ心臓ペースメーカー(庄田守男, 小林義典, 新田隆)	医学書院	2007		
高山守正	Highlights from the American Association for the Surgery of Trauma	ReSS Report 2006(岡田和夫, 笠置 宏)	協和企画	2007	33	38
加藤貴雄	心臓の働きとしくみ	心臓ペースメーカー・植込み型除細動器(田中茂)	医業ジャーナル社	2007	6	9
小林義典	不整脈とは 1) 徐脈性不整脈 2) 頻脈性不整脈	心臓ペースメーカー・植込み型除細動器(田中茂)	医業ジャーナル社	2007	10	17
新博次	III. 不整脈の治療法 2. 抗不整脈薬の使い方	「エキスパートをめざす循環器診療2. 不整脈」(井上 博)	南江堂	2006	81	93
山本剛, 田中啓治	II肺血栓塞栓症5-2鑑別診断-急性大動脈解離	静脈血栓塞栓症ガイドブック	中外医学社	2006	65	71

著 書

著者、所属	論 文 名	図 書 名	出版社	年	開始	終了頁
村川裕二1), 岩崎雄樹, 加藤武史 {1}帝京大学医学部附属溝口病院第四内科}	循環器臨床のセンスを身につける	循環器病態学ファイル	メディカル・サイエンス・インターナショナル	2007		
岩崎雄樹	セカンドオピニオン実践ガイド 実地診療にも役立つ病期・病態別治療指針：頻脈性不整脈	Medical Practice	文光堂	2007	264	274
水野杏一, 大國眞一1) {1}大國医院}	心血管内視鏡造影	内科学I (金澤一郎, 北原光夫, 山口徹, 小俣政男)	医学書院	2006	635	643
木股伸恒, 高野雅充, 酒井俊太, 水野杏一	血管内視鏡	"動脈硬化の診断マーカー：検査と意義「循環器科」	科学評論社	2006	351	357
水野杏一	血管内視鏡	カテーテルインターベンション (光藤和明)	メディカルビュー	2006	218	221
水野杏一	"血管内視鏡による冠動脈病変診断の進歩とその限界"	"冠動脈疾患のNew Concept (堀正二, 山口徹)	中山書店	2006	92	96
水野杏一, 村上大介	血管内視鏡	動脈硬化診療マニュアル (齋藤 康, 山田信博)	南江堂	2006	94	98
水野杏一	冠動脈血管内視鏡	内科学I (金澤一郎, 北原光夫, 山口徹, 小俣政男)	医学書院	2006	935	937
坪宏一	大動脈解離急性期診療においてDダイマー簡易迅速測定キットはスクリーニングに有用である	大動脈瘤、大動脈解離診療のコツと落とし穴(田林暁一、栗林幸夫)	中山書店	2006	42	43
水野杏一, 小川紅	スタチンによる1次予防	循環器 (山口徹, 高本眞一, 中澤誠, 小室一成)	中外医学社	2007	121	126
畑典武	急性冠症候群	一目でわかるクリティカルケア (Richard Leach 編, 益子邦洋監訳)	メディカルサイエンスインターナショナル	2006	34	35
畑典武	不整脈	一目でわかるクリティカルケア (Richard Leach 編, 益子邦洋監訳)	メディカルサイエンスインターナショナル	2006	36	37
畑典武	心不全と肺水腫	一目でわかるクリティカルケア (Richard Leach 編, 益子邦洋監訳)	メディカルサイエンスインターナショナル	2006	38	39
畑典武	心肺蘇生	一目でわかるクリティカルケア (Richard Leach 編, 益子邦洋監訳)	メディカルサイエンスインターナショナル	2006	40	41
畑典武	心臓緊急症	一目でわかるクリティカルケア (Richard Leach 編, 益子邦洋監訳)	メディカルサイエンスインターナショナル	2006	42	43
坪宏一(国立循環器病センター)	背部通	症候・症状からみた内科診療(富野康日己)	中外医学社	2007	55	61

学会発表

演 者、所 属	演 題 名	学 会 名	年 月
特別講演			
Atarashi H	Brugada Syndrome in Japan	Heart Rhythm Society 27th Annual Scientific Sessions (Boston)	2006 5
水野杏一	Angioscopy	第15回日本心血管イン ターベンション学会	2006 6
加藤貴雄	Brugada症候群における異常高周波電位の検出とその意義	第3回電話伝送心電図日 中国際シンポジウム	2006 10
教育講演			
清野精彦	無性冠症候群のリスク層別化と初期治療 - multi - biomarker approachの導入 -	第141回日本循環器学会 東北地方会	2006 2
宮内靖史	QT時間計測方法	第26回ホルター心電図 研究会	2006 6
宮内靖史	孤立性心房細動に外科治療を行うか	第21回日本不整脈学会 学術大会・第23回日本 心電学会学術集会 合 同学術集会	2006 7
宮本正章, 水野博司1), 多川政弘2), 米田正始3), 田畑泰彦4) { 1)形成外科・美容外科, 2)日本獣医生命科学大学獣医外科, 3)京都大学大学院医学研究科心臓血管外科, 4)京都大学再生医科学研究科生体材料学 }	重症難治性PADに対する総合的治療戦略 - 血管新生療法からマゴットセラピーまで -	第71回日本循環器学会 総会・学術集会	2007 3
高山守正	日本版心肺蘇生ガイドライン「救急蘇生の指針」の立場を示す	第71回日本循環器学会 総会・学術集会	2007 3
シンポジウム			
Miyamoto M	Current Situation of Maggot Therapy in Japan(Forensic&Therapeutic Diptera)	6th International Congress of Dipterology (Fukuoka,Tokyo)	2006 9
Miyauchi Y, Kobayashi Y, Katoh T, Takano T, Chen PS1), Karagueuzian H { 1)Korea University Cardiovascular Center,Seoul ROK }	Heterogeneous pulmonary vein myocardial cell repolarization:implications for reentry and triggered activity	2nd Asia-Pacific AF Symposium2006 (Tokyo,Japan)	2006 11
宮内靖史, 小林義典, 加藤貴雄, 高野照夫, Karagueuzian HS, Chen PS1) { 1)Korea University Cardiovascular Center,Seoul ROK }	肺静脈心筋細胞の再分極特性と不整脈原性	第21回日本不整脈学会 学術大会・第23回日本 心電学会学術集会 合 同学術集会	2006 7
山本剛, 佐藤直樹, 田中啓治, 高山守正1), 高野照夫1), 中澤賢2), 田島廣之2), 隈崎達夫2) { 1)内科学第1, 2)放射線医学 }	急性広範性, 亜広範性肺塞栓症に対する一時型下大静脈フィルターの有用性	第26回日本静脈学会総 会	2006 6
山本真功, 水野杏一, 富田和憲, 村上大介, 田近研一郎, 徳山権一, 稲見茂信, 清宮康嗣, 高野雅充, 大場崇芳	ベアメタルステントと薬剤溶出性ステント留置後の新生内膜被覆の差: 血管内視鏡による検討	第12回日本血管内治療 学会	2006 6
水野杏一, 高野雅充, 清宮康嗣, 岡松健太郎, 大場崇芳, 雪吹周生, 稲見茂信, 徳山権一, 山本真功, 田近研一郎	血管内視鏡による評価	第38回日本動脈硬化学 会	2006 7

学会発表

演 者、所 属	演 題 名	学 会 名	年 月
宮本正章, 水野博司1), 百束比古1), 高木元, 太良修平, 多川政弘2), 田畑泰彦3), 高野照夫 { 1)美容外科・形成外科, 2)日本獣医生命科学大学獣医外科, 3)京都大学再生医科学研究所 }	重症難治性虚血肢に対する総合的治療戦略 - 骨髄幹細胞及び徐放化蛋白による血管新生療法と医療用ウジ治療 - (再生医療 - 臨床・先進医療への展望 -)	第15回日本形成外科学会基礎学術集会	2006 10
山本真功, 村上大介, 田近研一郎, 徳山権一, 稲見茂信, 清宮康嗣, 高野雅充, 大場崇芳, 酒井俊太, 水野杏一	ベアメタルステントと薬剤溶出性ステント留置後の新生内膜被覆ならびに血栓残存の差: 血管内視鏡による検討	第47回日本脈管学会	2006 10
高野仁司, 高山守正, 安武正弘, 高野照夫	冠動脈新規病変出現に対するマルチブルリスクファクター症候群の影響 (メタボリックシンドロームを如何に予防するか)	第43回日本臨床生理学会総会	2006 11
山本剛, 佐藤直樹, 田中啓治, 高野仁司1), 高山守正1), 高野照夫1), 中澤賢2), 田島廣之2) { 1)内科学第1, 2)放射線医学 }	広範性および亜広範性の急性肺塞栓症に対する一時的型下大静脈フィルターの有効性	第13回肺塞栓症研究会学術集会	2006 12
宮本正章, 水野博司1), 多川政弘2), 田畑泰彦3) { 1)形成外科・美容外科, 2)日本獣医生命科学大学獣医外科, 3)京都大学再生医科学研究所生体材料学 }	重症PADに対する総合的治療戦略・血管新生療法からマゴットセラピーまで・末梢動脈閉塞性疾患PADのすべて 集学的治療の実際	日本医工学治療学会第23回学術大会	2007 2
パネルディスカッション			
保坂純郎1), 日高史貴1), 小野澤志郎1), 高木郁代, 隈崎達夫1) { 1)放射線科 }	出力の血管閉塞率と副作用に及ぼす影響 (EVL (endovenous laser treatment))	第26回日本静脈学会総会	2006 6
大場崇芳1), 酒井俊太1), 山本真功1), 富田和憲1), 村上大介1), 徳山権一1), 稲見茂信1), 清宮康嗣1), 高野雅充1), 横山真也, 畑典武, 水野杏一1) { 1)千葉北総病院内科 }	急性冠症候群に対する血管内視鏡所見による治療戦略	第47回日本脈管学会総会	2006 10
佐藤直樹1), 高山守正, 田中啓治1), 高野照夫 { 1)集中治療室 }	自動体外式除細動器への過信は禁物?	第34回日本集中治療医学会学術集会	2007 3
ランチョンセミナー			
水野杏一	我が国の高脂血症の1次予防	第54回日本心臓病学会学術集会	2006 9
ファイアーサイドシンポジウム			
新博次	不整脈治療最前線: 心不全は心房細動にどのように関わっているか? (心房細動と心不全: 臨床の立場から)	第54回日本心臓病学会学術集会	2006 9
Case-based Educational Courses			
Mizuno K	Comparison of culprit and non-culprit lesions in patients with multiple plaque rupture and acute coronary syndromes	Complex Catheter Therapeutics 2006 (Kobe)	2006 9
Morning Session			
Takano H, Taniguchi H, Asai K, Yoshikawa M, Iwasaki Y, Takayama M	Successful Balloon Valvuloplasty in Conjunction with Intra-Aortic Balloon Pumping in an Octogenarian who Developed Cardiogenic Shock due to Severe Aortic Valve Stenosis	Transcatheter Cardiovascular Therapeutics 2006 (Washington, DC, USA)	2006 10

学会発表

演 者、所 属	演 題 名	学 会 名	年 月
一般演題			
Miyauchi Y, Kobayashi Y, Nitta T, Maruyama M, Iwasaki Y, Horie T, Taniguchi H, Ueno A, Okazaki R, Hayashi M, Ishii Y, Ohmori H, Yamamoto T, Murata H, Katoh T, Takano T	The mechanisms and radiofrequency catheter ablation of atrial tachycardia following surgery for atrial fibrillation	Heart Rhythm 2006 (Boston,USA)	2006 5
Yodogawa K, Miyauchi Y, Kobayashi Y, Katoh K, Iwasaki Y, Yamamoto T, Taniguchi H, Horie T, Hirasawa Y, Morita N, Hayashi M, Maruyama M, Satoh N, Tanaka K, Katoh T, Takano T	The activation pattern of the premature ventricular contractions triggering an electrical storm in a patient with remote myocardial infarction	Heart Rhythm 2006 (Boston,USA)	2006 5
Horie T, Miyauchi Y, Kobayashi Y, Yamamoto T, Murata H, Okazaki R, Ueno A, Tateoka K, Taniguchi H, Hirasawa Y, Yodogawa K, Iwasaki Y, Hayashi M, Maruyama M, Ohara T, Katoh T, Takano T	Three subtypes of the reentrant circuit of typical atrial flutter as revealed by three-dimensional post-pacing interval mapping	Heart Rhythm 2006 (Boston,USA)	2006 5
Fujimoto H, Ohno T, Higashi H, Matsuzaki T, Honma H, Takano T	Developing Atrial Fibrillation During Dobutamine Stress Echocardiography and Maintaining Sinus Rhythm	World Federation for Ultrasound in Medicine and Biology (Seoul,Korea)	2006 5
Morisawa T, Takano H, Kato koji1), Taniguchi H1), Yoshida A, Yamamoto E, Yoshikawa M, Takahashi Y, Iwasaki Y1), Yamamoto T1), Fujita N, Takagi G, Aoki S, Asai K, Takayama M { 1)Coronary Care Unit }	Reappraisal of percutaneous balloon aortic valvuloplasty as an alternative in octogenarians declining surgical treatment	Complex Catheter Therapeutics2006 (Kobe,Tokyo)	2006 9
Miyamoto M, Takagi G, Tara S, Ohtsubo H, Mizuno H1), Takano H, Takano T { 1)Cosmetic and Plastic Surgery }	Excellent Combination Therapy of Maggot Debridement Therapy (MDT) and Bioartificial Dermis with Therapeutic Angiogenesis and /or Autograft Skin Transplantation	6th International Congress of Dipterology	2006 9
Takano H	Blood Pressure Lowering Effect of Valsartan in Uncontrolled Hypertension with Multiple Anti-Hypertensive Agents	The 21st Scientific Meeting of the International Society of Hypertension (Fukuoka,Japan)	2006 10
Kusama Y, Shinoda A, Yoda S, Ogata K, Kodani E, Tadera T, Nakagomi A, Ibuki C, Atarashi H, Takano T1) { 1)The First Department of Internal Medicine }	Left Ventricular Diastolic Dysfunction in Hypertensive Patients.Which Category of Antihypertensive Drug Prevets Development of Left Ventricular Diastolic Dysfunction(Ca channel blocker vs ACE inhibitor or ARB)?	The 21th Scientific Meeting of the International Society of Hypertension (Fukuoka)	2006 10
Iwasaki Y, Yamashita T1), Sekiguchi A1), Kobayashi Y, Katoh T, Takano T { 1)The Cardiovascular Institute }	Glucocorticoid Induces Atrial Arrhythmogenesis via Modification of Ion Channel Gene Expression in Rats	The 2nd Asia-Pacific Atrial Fibrillation Symposium (Tokyo)	2006 11
Miyauchi M, Miyauchi Y, Kobayashi Y, Takano T	Chronic Nicotine Administration Induces Atrial Fibrosis in Normal Rats : Implication for Atrial Fibrillation in Smokers	The 2nd Asia-Pacific Atrial Fibrillation Symposium (Tokyo)	2006 11

学会発表

演 者、所 属	演 題 名	学 会 名	年 月
Okazaki R, Iwasaki Y, Kobayashi Y, Katoh T, Takano T, Sekiguchi A1), Yamashita T1) { 1)The Cardiovascular institute }	Lipopolysaccharide Induces the Down-regulation of L-type Ca ²⁺ -Channel Genes in Rat Atria	The 2nd Asia-Pacific Atrial Fibrillation Symposium (Tokyo)	2006 11
Iwasaki Y, Yamashita T2), Sekiguchi A2), Tsuneda T2), Kato T2), Miyauchi Y1), Kobayashi Y1), Katoh T1), Takano T1) { 1)内科学第1, 2)心臓血管研究所 }	Long-term Treatment with Olmesartan Reduced Aging-Related Interstitial Fibrosis of Rat Atria Inhomogeneously	The 2nd Asia-Pacific Atrial Fibrillation Symposium (Tokyo)	2006 11
Iwasaki Y, Miyauchi Y, Hirasawa Y, Yodogawa Kenji, Katoh K, Yamamoto T, Naoki S, Tanaka Keiji, Kobayashi Y, Katoh T, Takano T { 1)内科学第1 }	Characteristics of Premature Ventricular Contractions Initiating Ventricular Tachyarrhythmia in Patients with Ischemic Heart Disease as Revealed by 12-Lead ECG Monitoring	The 2nd Asia-Pacific Atrial Fibrillation Symposium (Tokyo)	2006 11
Takagi G, Miyamoto M, Yasutake M, Takagi I, Takano H, Kato K, Tara S, Ohtsubo H, Komeda M, Marui A, Tabata Y, Takano T	A Novel Therapy Using Control-Released Basic Fibroblast Growth Factor in Patients with Peripheral Artery Disease: Comparison with Bone Marrow Mononuclear Cell Implantation	American Heart Association Scientific Sessions2006 (Chicago,USA)	2006 11
Hata N, Seino Y1), Tsutamoto T2), Kaneko N3), Hiramitsu S4), Yoshikawa T5), Yokoyama H6), Tanaka K7), Mizuno K8), Nejima J9), et al) { 1)The First Dept of Internal Medicine, 2)Dept of Cardiovascular and Respiratory Medicine, Shiga Univ of Medical Science, 3)Dept of Cardiology and Pneumology, Dokkyo Univ School of Medicine }	Effects of Carperitide on Cardioresenal Protection and Prognosis in Patients with Acute Decompensated Heart Failure. PROTECT Study	American Heart Association Scientific Sessions2006 (Chicago,USA)	2006 11
Takano H, Takayama M, Yamamoto E, Kawashima S, Fujita N, Takagi G, Aoki S, Asai K, Yasutake M, Takano T	Reduced Coronary Flow Reserve is a Predictor of Cardiac Events in Patients with Non-Ischemic Cardiomyopathy as well as in those with Cardiac Amyloidosis	American Heart Association Scientific Sessions2006 (Chicago,USA)	2006 11
Takahashi N, Yamamoto A1), Miwa Y, Kojima M, Tezuka S, Ishikawa M, Takenaga K, Amitani K, Kawaguti N, Uchida T, Munakata K { 1)department of radiology }	The relationship between left ventricular dyssynchrony a diastolic dysfunction in hypertension	American Heart Association Scientific Sessions 2006	2006 11
Kobayashi Y, Shimizu A1), Nitta T1), Murakawa Y2), Hayakawa H3) { 1)Committe of ICD, 2)Pacemaker Survey, 3)Strategic Planning }	Pacing and ICD Survey in Japan with Introduction of ICD Registry System	Cardio Rhythm 2007 (HongKong,China)	2007 2
Akutsu K1), Takayama M, Sato N, Yamamoto T, Takagi H, Fujita N, Tanaka K (1)National Cardiovascular Center)	Is Elastin really elevated in acute aortic dissection?	47th Conference of American College of Cardiology (New Orleans, USA)	2007 3
Yodogawa K1) { 1)Chiba-hokuso Hospital }	Non-invasive Detection of Latent Cardiac Sarcoidosis Using Signal Averaged Electrocardiogram	The 1st International Congress of Cardiomyopathies and Heart Failure (Kyoto,Japan)	2007 3

学会発表

演 者、所 属	演 題 名	学 会 名	年 月
Seino Y	Ongoing Myocardial Damage and Cardio-Renal Burden in Patients with Hypertensive Heart Disease with Preserved LV Systolic Function	The 1st International Congress of Cardiomyopathies and Heart Failure (Kyoto, Japan)	2007 3
Nakagomi A1), Seino Y, Tokita Y1), Kodani E1), Kusama Y1), Atarashi H1), Takano T { 1)Tama-nagayama Hospital }	Upregulation of Monocyte Chemokine Production by C-reactive Protein Contributes to the Exacerbation of Chronic Heart Failure	The 1st International Congress of Cardiomyopathies and Heart Failure (Kyoto, Japan)	2007 3
Kamiya M, Asai K1), Shirakabe A1), Murai K, Sasaki A1), Fukumoto Y1), Sato N, Seino Y1), Takano T1) { 1)内科学第1 }	Ovariectomy did not affect left ventricular hypertrophy, but caused more severe diastolic heart failure in mice with chronic β -adrenergic receptor stimulation.	The 1st International Congress of Cardiomyopathies and Heart Failure	2007 3
Miyamoto A, Zhang Xue-J, Ohsuga M, Shimizu S, Komeichi H, Kato Y, Satomura K, Akimoto T1), Katsuta Y { 1)Department of Laboratory Animal Science }	Chronic Administration of Methylene Blue Safely Improves Arterial Oxygenation in a Rat Model of Hepatopulmonary Syndrome	Asian Pacific Association for the Study of the Liver 2007 (Kyoto, Japan)	2007 3
Ohsuga M, Zhang Xue-J, Miyamoto A, Kato Y, Shimizu S, Komeichi H, Satomura K, Katsuta Y	Long-term follow-up of patients with nonalcoholic steatohepatitis(NASH)	Asian Pacific Association for the Study of the Liver (Kyoto, Japan)	2007 3
山本英世, 高野仁司, 菊池有史, 北村光信, 小杉宗範, 中村俊一, 佐々木朝子, 川嶋修二, 藤田進彦, 高木元, 青木聡, 浅井邦也, 安武正弘, 高山守正	Percutaneous coronary intervention under the rigid restriction of the dose of contrast media for patients with chronic renal insufficiency	第15回日本心血管インターベンション学会学術集会	2006 6
栗田明1), 岡田薫1), 堀口祐司1), 高瀬凡平2), 草間芳樹, 新博次 { 1)三愛病院, 2)防衛医科大学 }	脳血管障害を合併する後期高齢者に対する音楽療法の心血管系におよぼす影響	第103回日本内科学会講演会	2006 4
福島正人, 篠田暁代, 加藤活人, 宗像亮, 小谷英太郎, 田寺長, 雪吹周生, 草間芳樹, 新博次	脚ブロック患者における背景疾患と心エコー所見の特徴	第103回日本内科学会講演会	2006 4
安武ひろ子, 大野忠明, 藤本啓志, 東春香, 松崎つや子1), 本間博, 高野照夫 { 1)生理機能センター }	関節リウマチ患者におけるドブタミン負荷心エコーの有用性と特徴	第17回日本心エコー図学会学術集会	2006 4
藤本啓志, 大野忠明, 川中秀和, 東春香, 安武ひろ子, 伊藤恵子, 松崎つや子1), 本間博, 高野照夫 { 1)生理機能センター }	冠攣縮性狭心症に対するドブタミン負荷心エコーの検討	第17回日本心エコー図学会学術集会	2006 4
緒方憲一, 篠田暁与, 新博次, 井上博1), 相澤義房2) { 1)富山大学医学部第二内科, 2)新潟大学大学院医歯学総合研究科循環器学分野 }	ビルジカイニド静注によるBrugada型心電図誘発試験: 不完全右脚ブロック症例における検討	第3回不整脈薬物治療フォーラム	2006 4
山本彰1), 高橋直人, 金城忠志1), 阿部和也1), 佐藤雅史1) { 1)武蔵小杉病院放射線科 }	心電図同期SPECTの解析プログラム cardioGRAF による心不全における左室内同期不全の検討	日本医学放射線学会総会	2006 4
山本彰1), 高橋直人, 金城忠志1), 阿部和也1), 佐藤雅史1) { 1)武蔵小杉病院放射線科 }	同期SPECTの解析プログラム cardioGRAF における心不全におけるフーリエ近似次数の左室機能指標再現性に及ぼす影響	日本医学放射線学会総会	2006 4

学会発表

演 者、所 属	演 題 名	学 会 名	年 月
手塚晶人1), 高山守正, 滝沢憲一2), 安藤岳史3), 中村隆4), 五十嶋一成5) { 1) 日本医科大学4年, 2)横浜市立大学市民医療センター, 3)日本医科大学麻酔科学, 4)中村病院, 5)山岳医学研究会 }	中高年登山者における登山プロセスが標高2300mでの動脈血酸素化・脈拍数に及ぼす影響	2006年度日本登山医学会総会・第26回日本登山医学シンポジウム	2006 5
勝部乙大1), 金澤義一1), 瀬谷知子1), 横井公良1), 横山真也, 畑典武, 琴寄誠2), 岸田輝幸2), 水野杏一2), 山下精彦1), 田中宣威1), 田尻孝3) { 1)千葉北総病院外科, 2)同内科, 3)外科学第1 }	アメーバ性肝膿瘍に合併した脳膿瘍の1例	第289回日本消化器病学会関東支部例会	2006 5
太良修平, 宮元亮子, 清水秀治, 高野仁司, 古明地弘和, 里村克章, 勝田悌実	原発性胆汁性肝硬変に多発筋炎の合併が疑われる1例	第289回日本消化器病学会関東支部例会	2006 5
鈴木雄一朗, 横山真也, 白壁章宏, 椎葉邦人, 品田卓郎, 今泉孝敬, 畑典武	人工呼吸管理下で帰国した下腿壊死を伴う急性心筋梗塞に対し3枝完全血行再建, 動脈血栓除去, 下肢切断術を施行した1例	第28回日本心血管インターベンション学会関東甲信越地方会	2006 5
高野仁司, 高山守正, 菊池有史, 北村光信, 吉田明日香, 佐々木朝子, 山本英世, 川嶋修司, 藤田進彦, 高木元, 青木聡, 浅井邦也, 安武正弘, 高野照夫	左冠動脈主幹部分岐部病変に対するステント留置術症例の検討 比較的大きな中間枝をどう処理するか?	第28回日本心血管インターベンション学会関東甲信越地方会	2006 5
岩崎雄樹, 宮内靖史, 小林義典, 林明聡, 丸山光紀, 村田広茂, 岡崎怜子, 堀江格, 谷口宏史, 上野亮, 平澤泰宏, 淀川顕司, 加藤貴雄, 高野照夫, 新田隆1), 新博次2) { 1)外科学第2, 2)多摩永山病院内科 }	心内膜切除後の心外膜側残存心筋と心室瘤内残存心筋を含むマクロリエントリー性心筋梗塞後心室頻拍の1例	第36回臨床心臓電気生理研究会	2006 5
藤田進彦, 川嶋修司, 田中古登子, 宮本正章, 太田眞夫, 橋本英洋, 高野照夫, 渡邊恭子1), 古山景子1) { 1)看護部 }	経口糖尿病薬と持効型インスリン・グラルギン併用療法の臨床効果 (経口糖尿病薬にてコントロールできない症例の場合)	第49回日本糖尿病学会年次学術集会	2006 5
安武ひろ子, 大野忠明, 藤本啓志, 東春香, 松崎つや子1), 本間博, 高野照夫 { 1)生理機能センター }	関節リウマチ患者におけるドブタミン負荷心エコーの有用性と特徴	第79回日本超音波医学会学術集会	2006 5
関口昭子, 山下武志, 加藤武史, 相良耕一, 飯沼宏之, 傳隆泰, 相澤忠範, 岩崎雄樹, 大塚 { 1)日本医科大学内科学第1 }	ラット心房高頻度刺激による心房内皮障害に対するpravastatinの予防効果: 心房細動endocardial remodelingとスタチンのpleiotropic effects	第21回日本不整脈学会学術大会・第23回日本心電学会学術集会 合同学術集会	2006 6
岩崎雄樹1), 小林義典1), 加藤貴雄1), 山下武志2), 関口 昭子2) { 1)日本医科大学内科学第1, 2)心臓血管研究所 }	心房細動発症に関連する肺静脈・左心房の分子生物学的・組織学的基盤	第21回日本不整脈学会学術大会・第23回日本心電学会学術集会 合同学術集会	2006 6
高山守正, 北村光信, 佐々木朝子, 川嶋修司, 藤田進彦, 高木元, 高野仁司, 青木聡, 浅井邦也, 藤本啓志, 大野忠明, 山本剛1), 佐藤直樹1), 安武正弘 { 1)集中治療室 }	Remote stage regression of LVH after repeat procedure for unsatisfactory result of percutaneous septal alcohol ablation in patients with HOCM	第15回日本血管インターベンション学会学術集会	2006 6
安武正弘, 宮本正章, 加藤浩司1), 高木元, 高野仁司, 高山守正, 高野照夫 { 1)集中治療室 }	Assesment of neovascularization after autologous bone-marrow cell implantation by Technetium-99m macroaggregated albumin scintigraphy in patients with severe coronary artery disease	第15回日本血管インターベンション学会学術集会	2006 6
村上大介, 高野雅充, 横瀬知人, 大場嵩芳, 水野杏一	Coronary lumen loss caused by Sirolimus Eluting Stent Fracture can occur within w weeks after its implantation	第15回日本心血管インターベンション学会	2006 6

学会発表

演 者、所 属	演 題 名	学 会 名	年 月
加藤浩司1), 山本剛1), 藤田進彦1), 岩崎雄樹1), 吉川雅智1), 佐藤直樹1), 田中啓治1), 宮下正夫2), 高野照夫 { 1)集中治療室, 2)外科学第1 }	心嚢液貯留で発見された心臓血管肉腫に対して、放射線療法、免疫療法が著効し経過良好な1例	第200回日本循環器学会 関東甲信越地方会	2006 6
吉田明日香, 宮内靖史, 小原俊彦, 清野精彦, 小林義典, 高野照夫, 竹永清人1), 永山寛2), 山崎峰雄2), 田村浩一3), 杉崎祐一3) { 1)武蔵小杉病院内科, 2)内科学第2, 3)病理部 }	持続性心室頻拍を伴う心筋炎を合併した多発性筋炎の1例	第200回日本循環器学会 関東甲信越地方会	2006 6
宮本正章, 高木元, 高野仁司, 太良修平, 加藤浩司, 高木郁代, 安武正弘, 大坪春美, 水野博司1), 高野照夫 { 1)形成外科学 }	医療用無菌ウジ治療 (マゴットセラピー) + 自己骨髄幹細胞移植による血管新生療法 + 同種培養真皮 + 自家皮膚移植術併用療法により救済しえた高齢者難治性糖尿病性壊疽の1例	第23回糖尿病足病変研究会	2006 6
岡田薫, 栗田明1), 堀口祐司1), 高瀬凡平2), 草間芳樹, 新博次 { 1)医療法人社団愛有会三愛病院, 2)防衛医科大学校研究センター }	脳血管障害を合併する後期高齢者に対する音楽療法と心血管系におよぼす影響	第26回ホルター心電図研究会	2006 6
宮本正章, 安武正弘, 水野博司1), 高野仁司, 高木元, 加藤浩司, 太良修平, 多川政弘2), 田畑泰彦3), 高野照夫 { 1)日本医科大学形成外科学, 2)日本獣医畜産大学 獣医外科, 3)京都大学再生医科学研究所 }	重症難治性虚血肢に対する血管新生療法: 骨髄細胞, 徐放化蛋白による総合的治療戦略	第31回日本外科系連合学会学術集会	2006 6
時田祐吉, 草間芳樹, 中込明裕, 新博次	急性心血管疾患の初期診断におけるD-dimer迅速測定の有用性: 年齢による差異の検討	第48回日本老年医学会学術集会	2006 6
高橋直人, 山本彰1), 石川昌弘, 竹永清人, 阿部純子, 網谷賢一, 山口朋禎, 川口直美, 内田高浩, 星野公彦, 宗像一雄 { 1)武蔵小杉病院放射線科 }	心電図同期SPECTの解析プログラム"cardioGRAF"を用いた左室壁運動同期性と年齢の関連についての検討	第48回日本老年医学会学術集会	2006 6
磯野友昭1), 尾崎傑1), 市川匠1), 門松豊1), 酒井行直, 藤堂紗織, 大塚智之, 大野大, 村澤恒男, 宗像一雄 { 1)武蔵小杉病院血液浄化療法室 }	ネフローゼ症候群に対するLDLアフェレーシスによる抗炎症作用の検討	第51回 (社) 日本透析医学会学術集会・総会	2006 6
村澤恒男, 酒井行直, 小野卓也1), 網谷賢一, 原田英博, 大塚智之, 宗像一雄 { 1)付属病院内科学第1 }	維持透析患者の血液透析に伴う加算平均心電図とARI・dispersionの変動は、RA系と心拍数の変動に関連する	第51回 (社) 日本透析医学会学術集会・総会	2006 6
大塚智之, 手塚信吾, 藤堂紗織, 大野大, 高橋直人, 酒井行直, 村澤恒男, 宗像一雄, 松本光司1), 尾崎傑2), 磯野友昭2), 市川匠2), 門松豊2) { 1)武蔵小杉病院病理部, 2)同血液浄化療法室 }	TTPとの鑑別に難渋した成人発症のD (-) HUSの1症例	第51回 (社) 日本透析医学会学術集会・総会	2006 6
網谷賢一, 酒井行直, 村澤恒男, 宗像一雄, 門松豊1) { 1)武蔵小杉病院血液浄化療法室 }	血液透析前後の細胞内外水分量変化と、ANP、BNP、不整脈や主要心事故との関連	第51回 (社) 日本透析医学会学術集会・総会	2006 6
門松豊1), 尾崎傑1), 磯野友昭1), 市川匠1), 藤堂紗織, 大塚智之, 大野大, 酒井行直, 村澤恒男, 宗像一雄 { 1)武蔵小杉病院血液浄化療法室 }	消毒方法の違いにおける透析液の清浄化	第51回 (社) 日本透析医学会学術集会・総会	2006 6
亀山幹彦1), 宮地秀樹1), 岩本将人1), 金村應文1), 篠田暁与, 佐藤越, 松本真, 緒方憲一, 田寺長, 新博次 { 1)北村山公立病院内科 }	Coved型Brugada型心電図リスク層別化法: Pilsicainide負荷下におけるST上昇のdispersionの検討	第21回日本不整脈学会 / 第23回日本心電学会 合同学術大会	2006 7

学会発表

演 者、所 属	演 題 名	学 会 名	年 月
中込明裕1), 清野精彦 { 1)多摩永山病院内科 }	CRPは炎症反応の鋭敏な指標であるが心血管系疾患の発症に直接関与している	第27回日本炎症・再生医学会	2006 7
石井健輔, 中込明裕, 大塚俊昭, 小谷英太郎, 雪吹周生, 草間芳樹, 新博次	メタボリックシンドロームの発症・進展には軽妙な炎症と肥満, 脂質異常が関与するAbdominal Obesity and Dyslipidemia Associated with Subclinical Inflammation Play Significant Roles in the Pathogenesis and Development of Metabolic	第38回日本動脈硬化学会総会	2006 7
進士恵美, 横山真也, 河野美貴子, 鈴木雄一朗, 小林宣明, 清宮康嗣1), 高野雅充1), 新井悟2), 大秋美治2), 雪吹周生1), 今泉孝敬, 畑典武, 水野杏一1) { 1)千葉北総病院内科, 2)同病理部 }	広範囲腸管壊死の1死亡例	第15回日本集中治療医学会関東甲信越地方会	2006 8
中田淳, 岩崎雄樹, 古川雅智, 村井綱児, 神谷仁孝, 加藤浩司, 平澤泰宏, 赤田信二, 宮城泰雄, 山本剛, 本郷卓, 佐藤直樹, 竹田普浩, 田中啓治, 高野照夫1) { 1)内科学第1 }	重症誤えん性肺炎を契機に白血球減少をきたし同時に著明な高サイトカイン血症が認められステロイドが有効であった2症例	第15回日本集中治療医学会関東甲信越地方会	2006 8
田中古登子, 清野精彦, 福本裕子, 太田眞夫, 猪口孝一1), 高野照夫 { 1)内科学第3 }	循環器疾患における凝固機能評価の重要性と各種凝固因子低下症に対する対策	第15回日本集中治療医学会関東甲信越地方会	2006 8
竹山聡美1), 小谷英太郎 { 1)多摩永山病院看護部 }	糖尿病専門医がいない施設での外来療養指導の実際	第11回日本糖尿病教育・看護学会	2006 9
宮元亮子, 古明地弘和, 清水秀治, 里村克章, 勝田悌実	C型肝硬変, 肝細胞癌に門脈下大静脈シャントを合併し, コイルによるシャント塞栓術を施行した1例	第13回日本門脈圧亢進症学会総会	2006 9
秋山豪1), 大場崇芳1), 廣瀬知人1), 進士恵美1), 宮本倫聡1), 山本真功1), 富田和憲1), 小川紅1), 村上大介1), 淀川顕司1), 徳山権一1), 稲見茂信1), 清宮康嗣1), 高野雅充1), 大野則彦1), 雪吹周生1), 畑典武, 水野杏一1) { 1)千葉北総病院内科 }	健診を契機に発見された巨大な冠動脈-肺動脈瘻の1例	第201回日本循環器学会関東甲信越地方会	2006 9
小原賢司1), 平澤泰宏1), 岩崎雄樹1), 村井綱児1), 神谷仁孝1), 吉川雅智1), 加藤浩司1), 山本剛1), 佐藤直樹1), 田中啓治1), 宮内靖史, 丸山光紀, 谷口宏史, 岡崎玲子, 村田広茂, 山本哲平, 小林義典, 高野照夫, 他 (1) 集中治療室)	薬剤抵抗性難治性心室頻拍に対しカテーテルアブレーションおよび開胸クライオアブレーションが奏功した1例	第201回日本循環器学会関東甲信越地方会	2006 9
堀江格, 緒方憲一, 篠田暁与, 佐藤越, 松本真, 小谷英太郎, 田寺長, 中込明裕, 草間芳樹, 新博次	Pilsicanide 静注により興味深い心電図変化を観察し得たQT短縮傾向を有する心電図異常の1例	第201回日本循環器学会関東甲信越地方会	2006 9
岡田薫, 栗田明1), 堀口祐司1), 高瀬凡平2), 小谷英太郎, 草間芳樹, 新博次 { 1)三愛病院, 2)防衛医科大学研究センター }	脳血管障害を合併する後期高齢者に対する音楽療法の心血管系におよぼす影響	第54回日本心臓病学会学術集会	2006 9
加藤浩司1), 佐藤直樹1), 山本剛1), 岩崎雄樹1), 吉川雅智1), 田中啓治1), 高野照夫 { 1)集中治療室 }	軽度腎障害患者の造影剤腎症に対するシスタチンCの有効性	第54回日本心臓病学会学術集会	2006 9
加藤政利1), 福間長知, 菅谷寿理1), 牛島明子, 真鍋宏美, 加藤祐子, 愛須紀子, 斉藤公一1), 本間博, 高野照夫 { 1)生理機能センター }	運動負荷中に測定された経皮炭酸ガス分圧変動の意義	第54回日本心臓病学会学術集会	2006 9

学会発表

演 者、所 属	演 題 名	学 会 名	年 月
牛島明子, 福間長知, 真鍋宏美, 加藤和代, 加藤祐子, 愛須紀子, 土田貴也, 馬淵浩輔, 高野照夫	圧受容体反射を介した交感神経興奮異常による運動耐容能障害	第54回日本心臓病学会 学術集会	2006 9
佐藤直樹1), 山本剛1), 岩崎雄樹1), 平澤泰宏1), 加藤浩司1), 吉川雅智1), 神谷仁孝1), 村井網児1), 高野照夫, 田中啓治1) { 1)集中治療室 }	急性心不全治療におけるA型ナトリウム利尿ペプチドの腎保護効果に影響を与える因子の検討	第54回日本心臓病学会 学術集会	2006 9
白壁章宏, 横山真也, 岡崎大武, 一木邦彦, 鈴木雄一朗, 椎葉邦人, 品田卓郎, 今泉孝敬, 畑典武	急性大動脈解離の初診時スコアリング	第54回日本心臓病学会 学術集会	2006 9
山本英世, 高野仁司, 田島廣之1), 菊池有史, 北村光信, 吉田明日香, 佐々木朝子, 川嶋修二, 高橋保裕, 田辺潤2), 高木元, 藤田進彦, 青木聡, 浅井邦也, 横山広之2), 安武正弘, 高山守正, 高野照夫 { 1)放射線科, 2)静岡医療センター循環器科 }	経皮的腎血管形成術の血圧及びBNPに与える影響	第54回日本心臓病学会 学術集会	2006 9
山本剛1), 田島廣之2), 村井網児1), 神谷仁孝1), 吉川雅智1), 加藤浩司1), 平澤泰宏1), 岩崎雄樹1), 佐藤直樹1), 田中啓治1), 高野照夫 { 1)集中治療室, 2)放射線科 }	急性広範性および亜広範性肺塞栓症に対する一時型下大静脈フィルターの有用性	第54回日本心臓病学会 学術集会	2006 9
時田祐吉, 草間芳樹, 宗像亮, 福島正人, 石井健輔, 吉田博史, 佐藤越, 松本真, 緒方憲一, 小谷英太郎, 田寺長, 中込明裕, 新博次	救急外来での急性冠症候群の初期診断におけるD-dimer迅速測定の有用性	第54回日本心臓病学会 学術集会	2006 9
宗像亮1), 中込明裕1), 時田祐吉1), 石井健輔1), 吉田博史1), 小谷英太郎1), 草間芳樹1), 新博次1), 高野照夫 { 1)多摩永山病院 内科・循環器内科 }	メタボリックシンドロームは冠動脈硬化症の範囲と心事故を増やす	第54回日本心臓病学会 学術集会	2006 9
緒方憲一, 篠田暁与, 佐藤越, 松本真, 田寺長, 草間芳樹, 新博次	メタボリックシンドローム合併発作性心房細動と血管内皮機能	第54回日本心臓病学会 学術集会	2006 9
小野卓哉, 板倉潮人1), 藤田進彦, 田中古登子, 本間博, 宮本正章, 小林義典, 太田眞夫, 加藤貴雄, 高野照夫	Pioglitazoneの心筋再分極過程に対する経時的変化の検討	第54回日本心臓病学会 学術集会	2006 9
松崎つや子1), 本間博, 藤本啓志, 東春香, 安武ひろ子, 横島友子, 伊藤恵子, 大野忠明, 高野照夫 { 1)生理機能センター }	ドブタミン負荷による心筋虚血誘発時の収縮期strainパターン, 特に収縮早期の心筋伸展の意義	第54回日本心臓病学会 学術集会	2006 9
上野亮, 小林義典, 加藤貴雄, 高野照夫	新たなアルゴリズムを用いた突然死リスク評価とその有用性: 非持続性心室頻拍での検討	第54回日本心臓病学会 学術集会	2006 9
真鍋宏美, 福間長知, 牛島明子, 加藤和代, 加藤祐子, 愛須紀子, 土田貴也, 馬淵浩輔, 高野照夫	圧受容体反射感受性の差異による運動負荷時血圧応答の変化	第54回日本心臓病学会 学術集会	2006 9
菅谷寿理1), 福間長知, 加藤政利1), 加藤和代, 土田貴也, 馬淵浩輔, 齊藤公一1), 本間博, 岸田浩, 高野照夫 { 1)生理機能センター }	軽症心筋梗塞患者における抑うつが自律神経機能および酸化ストレスに及ぼす影響	第54回日本心臓病学会 学術集会	2006 9
雪吹周生1), 栗矢勝宏2), 大塚俊昭, 小谷英太郎, 田寺長, 草間芳樹, 新博次, 他 { 1)千葉北総病院内科 }	高血圧患者の認知機能に影響する因子: アンギオテンシン受容体拮抗薬とカルシウム拮抗薬併用の意義	第54回日本心臓病学会 学術集会	2006 9

学会発表

演 者、所 属	演 題 名	学 会 名	年 月
雪吹周生, 安掛美紀1), 大塚俊昭2), 小谷英太郎3), 田寺長3), 草間芳樹3), 新博次3), 他 { 1)東京薬科大学薬学部総合医療薬学, 2)衛生学・公衆衛生学, 3)多摩永山病院内科・循環器内科 }	軽症糖尿病患者におけるPioglitazoneの心肥大退縮効果は血中Adiponectin値に係る	第54回日本心臓病学会 学術集会	2006 9
太良修平, 高木元, 高木郁代, 大坪春美, 安武正弘, 高野仁司, 加藤浩司1), 田畑泰彦2), 宮本正章, 高野照夫 { 1)日本医科大学付属病院集中治療室, 2)京都大学 再生医科学研究所 生体組織工学研究 生体材料学 }	末梢血管疾患に対する徐放化basic-FGFを用いた蛋白治療の安全性と有効性の検討	第54回日本心臓病学会 学術集会	2006 9
大塚俊昭1), 雪吹周生2), 石井健輔, 吉田博史, 小谷英太郎, 草間芳樹, 新博次 { 1)衛生学公衆衛生学教室, 2)千葉北総病院内科 }	高感度CRPは冠動脈疾患発症リスク評価に有用か? : 健康中年男性における検討	第54回日本心臓病学会 学術集会	2006 9
大野忠明, 藤本啓志, 東春香, 安武ひろ子, 横島友子, 福岡祐美子, 伊藤恵子, 松崎つや子1), 本間博, 高野照夫 { 1)生理機能センター }	ドブタミン負荷心エコー中に出現する心房細動に対するアンギオテンシンII受容体拮抗薬の検討	第54回日本心臓病学会 学術集会	2006 9
中込明裕1), 清野精彦, 宗像亮1), 時田祐吉1), 石井健輔1), 小谷英太郎1), 草間芳樹1), 新博次1), 高野照夫 { 1)多摩永山病院内科 }	CRP刺激時の単球上ケモカイン発現亢進は慢性心不全患者の心不全悪化に関与する	第54回日本心臓病学会 学術集会	2006 9
中込明裕1), 山本英世, 宗像亮1), 時田祐吉1), 石井健輔1), 小谷英太郎1), 草間芳樹1), 高山守正, 清野精彦, 新博次1), 高野照夫 { 1)多摩永山病院内科 }	メタボリックシンドロームは急性冠症候群患者の心不全発症に関与する	第54回日本心臓病学会 学術集会	2006 9
板倉潮人1), 小野卓哉, 佐藤直樹, 小林義典, 田中啓治2), 加藤貴雄, 高野照夫 { 1)同愛記念病院 循環器内科, 2)日本医科大学付属病院集中治療室 }	時間的QT変動は心房細動を有する心疾患の予後に貢献するか?	第54回日本心臓病学会 学術集会	2006 9
福岡長知, 菅谷寿理1), 加藤和代, 牛島明子, 真鍋宏美, 加藤祐子, 愛須紀子, 土田貴也, 馬淵浩輔, 宮武佳子, 岸田浩, 高野照夫 { 1)生理機能センター }	心筋梗塞後の酸化ストレスが増大した状況におけるアスコルビン酸摂取とPentosidine増加の関係	第54回日本心臓病学会 学術集会	2006 9
北村光信, 高山守正, 菊池有史, 吉田明日香, 佐々木朝子, 藤本啓志, 山本英世, 川嶋修司, 高橋保裕, 高木元, 藤田進彦, 高野仁司, 青木聡, 浅井邦也, 佐藤直樹, 安武正弘, 高野照夫	左室内圧較差の著明でない症候性閉塞性肥大型心筋症へのニログリセリン静注負荷試験の有用性	第54回日本心臓病学会 学術集会	2006 9
淀川顕司, 清野精彦, 小原俊彦, 高山英男, 小林義典, 加藤貴雄, 高野照夫	サルコイドーシス患者における潜在性心筋病変の検出	第54回日本心臓病学会 学術集会	2006 9
荒木久美1), 山賀節子1), 越谷美由紀1), 隠岐和美1), 荒井誠一1), 大塚紀子, 高久貴子1), 井上雅則1), 新宅孝征1), 勝部康弘1), 山本彰2), 高橋直人, 内田高浩, 内田拓実, 宗像一雄, 西島美輝子1 { 1)武蔵小杉病院中央検査室, 2)同放射線科 }	収縮能が保たれた高血圧患者における拡張機能とBNPとの関連: 経胸壁心エコーによる検討	第74回日本医科大学医学学会総会	2006 9
四田千穂美1), 廣川尚美1), 相澤泰与1), 藤木直美1), 久保田久子1), 菊地英子1), 池野廣幸1), 草間芳樹, 新博次 { 1)中央検査室 }	血圧脈波検査装置HEM-9000AIの基礎的検討	第74回日本医科大学医学学会総会	2006 9

学会発表

演 者、所 属	演 題 名	学 会 名	年 月
岡松健太郎, 稲見茂信, 横山真也1), 高野雅充, 清宮康嗣, 大場崇芳, 田近研一郎, 雪吹周生, 水野杏一 {1)千葉北総病院集中治療室}	Silent Plaqueと Culprit Plaque Ruptureの血管内視鏡による比較	第20回日本心臓血管内視鏡学会	2006 10
岡松健太郎1), 稲見茂信1), 横山真也, 高野雅充1), 清宮康嗣1), 大場崇芳1), 田近研一郎1), 雪吹周生1), 水野杏一1) {1)日本医科大学千葉北総病院内科}	Silent Plaque Rupture と Culprit Plaque Ruptureの血管内視鏡による比較	第20回日本心臓血管内視鏡学会学術研究集会	2006 10
山本真功, 岡崎大武, 宮本倫聡, 村上大介, 田近研一郎, 徳山権一, 稲見茂信, 岡松健太郎, 清宮康嗣, 高野雅充, 大場崇芳, 横山真也1), 酒井俊太1), 水野杏一 {1)千葉北総病院集中治療室}	ベアメタルステントと薬剤溶出性ステント留置後の血栓残存の差: 血管内視鏡による検討	第20回日本心臓血管内視鏡学会	2006 10
清宮康嗣, 高野雅充, 宮本倫聡, 山本真功, 小川紅, 村上大介, 田近研一郎, 淀川顕司, 徳山権一, 稲見茂信, 大野則彦, 大場崇芳, 雪吹周生, 水野杏一	非責任血管における破綻プラークの経時的変化	第20回日本心臓血管内視鏡学会	2006 10
村上大介, 高野雅充, 山本真功, 田近研一郎, 徳山権一, 稲見茂信, 清宮康嗣, 大場崇芳, 雪吹周生, 水野杏一	ベアメタルステントと薬剤溶出性ステント留置後の新生内膜被覆の差	第20回日本心臓血管内視鏡学会	2006 10
中山修一1), 須賀絵里子1), 岩崎岳洋1), 水野杏一, 荒井恒憲1) {1)慶應義塾大学大学院理工学研究科基礎理工学専攻}	Ho:YAGレーザー誘起水蒸気気泡による血管内視鏡視野確保法・3	第20回日本心臓血管内視鏡学会	2006 10
山本真功1), 岡崎大武1), 宮本倫聡1), 村上大介1), 田近研一郎1), 徳山権一1), 稲見茂信1), 岡松健太郎1), 清宮康嗣1), 高野雅充1), 大場崇芳1), 横山真也, 酒井俊太1), 水野杏一1) {1)千葉北総病院内科}	薬剤溶出性ステント留置3ヵ月後にストラット周囲から張り出した構造物: Optical Coherence Tomography と血管内視鏡所見との対比	第20回日本心臓血管内視鏡学会	2006 10
山口朋禎, 佐藤雅史1), 宗像一雄 {1)武蔵小杉病院放射線科}	刺青後に発症したレフグレン症候群の1例	第26回日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会総会	2006 10
亀山明美1), 村田和也1), 小谷英太郎, 田寺長, 草間芳樹, 新博次, 他 {1)多摩永山病院薬剤科}	薬薬連携による吸入指導試験のシステム構築	第39回日本薬剤師会学術大会	2006 10
高頭文隆1), 北山由里香1), 岩崎梨沙1), 吉川佳奈2), 亀山明美3), 村田和也3), 小谷英太郎, 田寺長, 草間芳樹, 新博次, 他{1)ミネ薬局永山駅前タワー店, 2)ミネ薬局中野坂上店, 3)多摩永山病院薬剤科}	薬薬連携の実際:吸入指導調査実施における考察	第39回日本薬剤師会学術大会	2006 10
高木元, 宮本正章, 安武正弘, 高木郁代, 高野仁司, 加藤浩司, 太良修平, 米田正始, 田畑泰彦, 高野照夫	末梢動脈閉塞性疾患に対する徐放化basic-FGF血管再生臨床研究 -有効性と安全性の検討-	第47回日本脈管学会	2006 10
山本真功, 宮本倫聡, 村上大介, 田近研一郎, 淀川顕司, 徳山権一, 稲見茂信, 高野雅充, 清宮康嗣, 大野則彦	血管内視鏡を用いたステント血栓症の検討	第29回循環器合同カンファランス	2006 11
山本剛, 佐藤直樹, 田中啓治, 青木聡1), 小林義典1), 高山守正1), 高野照夫1), 吉田竜介2), 山本保博2), 坂本篤裕3) {1)内科学第1, 2)救急, 3)麻酔科学・ME部}	AEDが作動しなかった院内心室細動の2例とそのメカニズム	第34回日本救急医学会総会・学術集会	2006 11

学会発表

演 者、所 属	演 題 名	学 会 名	年 月
加藤政利1), 福岡長知, 菅谷寿理1), 牛島明子, 加藤裕子, 愛須紀子, 斉藤公一1), 本間博, 高野照夫 {1)生理機能センター}	安静及び運動負荷時の過換気負荷に対する経皮炭酸ガス分圧の変化	第43回日本臨床生理学学会総会	2006 11
菅谷寿理1), 福岡長知, 加藤政利1), 真鍋宏美, 加藤和代, 土田貴也, 馬淵浩輔, 斉藤公一1), 本間博, 清野精彦, 高野照夫 {1)生理機能センター}	睡眠時無呼吸症候群における経皮炭酸ガス分圧測定の有用性	第43回日本臨床生理学学会総会	2006 11
亀山明美1), 村田和也1), 小谷英太郎, 田寺長, 草間芳樹, 新博次 {1)多摩永山病院薬剤科}	日本医科大学多摩永山病院における吸入指導の実態調査: メプチンクリックヘラーとエアロゾン製剤との比較	第56回日本アレルギー学会総会	2006 11
山本剛, 佐藤直樹, 田中啓治, 高野仁司1), 高山守正1), 高野照夫1), 中澤賢2), 田島廣之2) {1)内科学第1, 2)放射線医学}	モンテプラゼによる血栓溶解療法: 当院における初期成績	第13回肺塞栓症研究会学術集会	2006 12
岡崎怜子, 山本哲平, 小杉宗範, 平澤泰宏, 岩崎雄樹, 丸山光紀, 高野仁司, 宮内靖史, 小林義典, 加藤貴雄, 高野照夫	下壁および前胸部誘導でJ波を伴うST上昇と頻回の多形性心室頻拍を認めたBrugada症候群の1例	第202回日本循環器学会関東甲信越地方会	2006 12
山本真功, 宮本倫聡, 村上大介, 田近研一郎, 徳山権一, 稲見茂信, 岡松健太郎, 清宮康嗣, 高野雅充, 大場崇芳, 雪吹周生, 水野杏一	チクロピジン内服中にベアメタルステント留置43ヶ月後の遅発性血栓症を血管内視鏡にて観察しえた1例	第202回日本循環器学会関東甲信越地方会	2006 12
小橋啓一1), 加藤浩司1), 山本剛1), 岩崎雄樹1), 平澤泰宏1), 吉川雅智1), 神谷仁孝1), 村井綱児1), 佐藤直樹1), 田中啓治1), 浅井邦也, 高野照夫 {1)集中治療室}	動脈管開存症を合併した非マルファン産褥期大動脈解離の1例	第202回日本循環器学会関東甲信越地方会	2006 12
小林宣明, 横山真也, 菊池有史, 白壁章宏, 鈴木雄一朗, 品田卓郎, 畑典武	ショック状態を呈した梗塞後心膜炎の1例	第202回日本循環器学会関東甲信越地方会	2006 12
松本真, 小谷英太郎, 宗像亮, 時田祐吉, 中込明裕, 草間芳樹, 新博次	高度な冠動脈石灰化を認めた偽性偽性副甲状腺機能低下症の1例	第202回日本循環器学会関東甲信越地方会	2006 12
太良修平, 丸山光紀, 小林義典, 藤本啓志, 小鹿野道雄, 平澤泰宏, 大野忠明, 高木元, 高野仁司, 安武正弘, 本間博, 加藤貴雄, 高野照夫	QT延長を伴った心筋緻密化障害の1例	第202回日本循環器学会関東甲信越地方会	2006 12
清宮康嗣, 高野雅充, 宮本倫聡, 山本真功, 小川紅, 村上大介, 田近研一郎, 淀川顕司, 徳山権一, 稲見茂信, 大野則彦, 大場崇芳, 雪吹周生, 水野杏一	非責任血管における破綻プラークの経時的変化 (血管内視鏡による観察)	第20回日本冠疾患学会	2006 12
田近研一郎, 山本真功, 村上大介, 稲見茂信, 岡松健太郎, 徳山権一, 淀川顕司, 清宮康嗣, 高野雅充, 大野則彦, 大場崇芳, 雪吹周生, 水野杏一, 小谷一夫	プラークの色調とMDA-LDLの関係	第20回日本冠疾患学会	2006 12
山本剛, 中田淳, 神谷仁孝, 村井綱児, 吉川雅智, 加藤浩司, 平澤泰宏, 岩崎雄樹, 佐藤直樹, 田中啓治, 田島廣之1), 高山守正2), 高野照夫2) {1)放射線医学, 2)内科学第1}	急性肺塞栓症に対するカテーテルインターベンションの治療成績	第26回東京CCU研究会	2006 12
小谷英太郎, 竹山聡美1), 田寺長, 雪吹周生2), 草間芳樹, 新博次, 長澤紘一 {1)多摩永山病院看護部, 2)千葉北総病院内科}	2型糖尿病に対するピオグリタゾン単独療法の有用性	第41回日本成人病 (生活習慣病) 学会学術集会	2007 1

学会発表

演 者、所 属	演 題 名	学 会 名	年 月
上村竜太, 松本真, 福島正人, 時田祐吉, 宗像亮, 細川雄亮, 青木亜佐子, 波井俊之, 堀江格, 小谷英太郎, 中込明裕, 草間芳樹, 新博次	多量の肺動脈血栓による多発性肺梗塞を合併したKlinefelter症候群の1例	第203回日本循環器学会 関東甲信越地方会	2007 2
中田淳, 岩崎雄樹, 古川雅智, 加藤浩司, 平澤泰宏, 村井綱児, 神谷仁孝, 山本剛, 佐藤直樹, 田中啓治	意識障害で当院救命救急センターに搬送され, 心電図でST上昇を認めた症例	第203回日本循環器学会 関東甲信越地方会	2007 2
加藤浩司1), 山本剛1), 岩崎雄樹1), 平澤泰宏1), 吉川雅智1), 神谷仁孝1), 村井綱児1), 佐藤直樹1), 田中啓治1), 高野照夫 { 1)集中治療室 }	閉塞性肥大型心筋症による重症急性循環不全に対して急性期心房同期心室ペーシングを行い救命できた二症例	第34回日本集中治療医学会学術集会	2007 3
岩崎雄樹1), 吉川雅智1), 加藤浩司1), 平澤泰宏1), 山本剛1), 佐藤直樹1), 田中啓治1), 小林義典, 加藤貴雄, 高野照夫 { 1)集中治療室 }	当院集中治療室における抗不整脈薬の使用状況	第34回日本集中治療医学会学術集会	2007 3
坂本幸子1), 佐藤直樹2), 村井綱児2), 山本剛2), 岩崎雄樹2), 加藤浩司2), 平澤泰宏2), 吉川雅智2), 高野照夫, 田中啓治2) { 1)治療推進室, 2)集中治療室 }	循環器集中治療入室患者の腎機能悪化に関与する背景因子の検討	第34回日本集中治療医学会学術集会	2007 3
山本剛1), 岩崎雄樹1), 佐藤直樹1), 竹田晋浩1), 田中啓治1), 高山守正, 安武正弘, 清野精彦, 高野照夫, 田島廣之2) { 1)集中治療室, 2)放射線医学 }	血栓溶解療法が相対的に禁忌な重症急性肺塞栓症に対する血栓溶解薬投与法の検討	第34回日本集中治療医学会学術集会	2007 3
神谷仁孝1), 佐藤直樹1), 山本剛1), 岩崎雄樹1), 加藤浩司1), 平澤泰宏1), 吉川雅智1), 村井綱児1), 高野照夫, 田中啓治1), 集中治療室	急性心不全における腎尿細管障害マーカー測定の意味	第34回日本集中治療医学会学術集会	2007 3
村井綱児1), 岩崎雄樹1), 神谷仁孝1), 吉川雅智1), 加藤浩司1), 平澤泰宏1), 山本剛1), 佐藤直樹1), 田中啓治1), 高野照夫 { 1)集中治療室 }	集学的な循環器治療によって救命しえたElectrical Stormの1例	第34回日本集中治療医学会学術集会	2007 3
白壁章宏, 畑典武, 横山真也, 品田卓郎, 鈴木雄一朗, 小林宣明, 菊池有史	胸水中のサイトカインの臨床的意義についての検討	第34回日本集中治療医学会学術集会	2007 3
坪宏一, 植田初枝, 池田善彦, 荻野均, 田守唯一, 横山直之, 野々木宏, 竹下聡 (国立循環器病センター)	若年発症の大動脈解離はすべてマルファン症候群か? 病理と臨床からの検討	第34回日本集中治療医学会学術集会	2007 3
川中秀和, 安田文彦, 田中古登子, 高木元, 古明地弘和, 宮本正章, 勝田悌実, 高野照夫	チャージストラウス症候群に合併した下腿潰瘍に徐放化b-FGFハイドロゲル浸透人工真皮による血管再生治療が有効であった1例	第543回日本内科学会関東地方会	2007 3
太良修平, 高木元, 加藤浩司1), 高野仁司, 高木郁代, 安武正弘, 宮本正章, 高野照夫 { 1)集中治療室 }	自己骨髄幹細胞移植による血管再生治療後の下肢切断予測因子の検討	第6回日本再生医療学会総会	2007 3
Akutsu K, Ueda-ishibashi H, Ikeda Y, Ogino H Tamori Y, Yokoyama N, Nonogi H, Takeshita S (National Cardiovascular Center)	The role of heritable connective tissue disorders in the pathogenesis of aortic dissection at young onset.	第71回日本循環器学会 総会・学術集会	2007 3
Shirakabe A, Yokoyama S, Okazaki H, Kikuchi A, Kobayashi N, Shiiba K, Shinada T, Imaizumi T, Hata N	Dignostic Score of Acute Aortic Dissection at Emergency Room	第71回日本循環器学会 総会・学術集会	2007 3

学会発表

演 者、所 属	演 題 名	学 会 名	年 月
Fukuma N, Miura K, Ushijima A, Kanazawa H, Kimura Y, Tsuchida T, Aisu N, Mabuchi K, Miyatake Y, Kishida H, Takano T	Long Term Administration of Ascorbic Acid Induces to Decrease in Lactic Acid Production during Exercise in Patients after Myocardial Infarction	第71回日本循環器学会 総会・学術集会	2007 3
Horie T1), Atarashi H1), Miyauchi Y, Kobayashi Y, Murata H, Yamamoto T, Okazaki R, Ueno A, Taniguchi H, Hirasawa Y, Iwasaki Y, Maruyama M, Katoh T, Takano T, Ohmori H2), Nitta T2) { 1)Tama-nagayama, 2)The Department of Cardiovascular surgery }	Post-operative Atrial Tachycardia Following Mitral Surgery via the Superior Transseptal Approach	第71回日本循環器学会 総会・学術集会	2007 3
Hosokawa Y1), Nakagomi A1), Aoki A1), Shibui T1), Tokita Y1), Munakata R1), Uemura R1), Takano H, Kodani E1), Aoki S, Asai K, Yasutake M, Kusama Y1), Takayama M, Atarashi H1), Takano T { 1)Tama-nagayama Hospital }	Peak White Blood Cell Count and Fasting Glucose are Independent Predictors of Left Ventricular Remodeling in Reperfused Acute Myocardial Infarction	第71回日本循環器学会 総会・学術集会	2007 3
Ishikawa M, Yamamoto A1), Takahashi N, Zhu C, Tezuka S, Hanaoka D, Iwamoto M, Abe J, Takenaga K, Amitani K, Yamaguchi T, Kawaguchi N, Uchida T, Munakata K { 1)Department of Radiology }	The Dyssynchrony Assessed by a Novel Program "cardioGRAF" for Tc99m-sestamibi-Gated-SPECT in the Development of Heart Failure	第71回日本循環器学会 総会・学術集会	2007 3
Iwasaki Y, Yamashita T1), Sekiguchi A1), Tsuneda T1), Kato T1), Miyauchi Y, Kobayashi Y, katoh T, Takano T { 1)The Cardiovascular Institute,Tokyo }	Long-term Treatment with Olmesartan Reduced Aging-Related Interstitial Fibrosis of Rat Atria Inhomogeneously	第71回日本循環器学会 総会・学術集会	2007 3
Iwasaki Y1), Miyauchi Y, Hirasawa Y1), Yodogawa K1), Katoh K1), Yamamoto T1), Satoh N1), Tanaka K1), Kobayashi Y, Katoh T, Takano T { 1)Cardiac Care Unit& Intensive Care Unit }	Characteristics of Premature Ventricular Contractions Initiating Ventricular Tachyarrhythmia in Patients with Ischemic Heart Disease as Revealed by 12-Lead ECG Monitoring	第71回日本循環器学会 総会・学術集会	2007 3
Kamiya M1), Sato N1), Yamamoto T1), Iwasaki Y1), Hirasawa Y1), Kato K1), Yoshiakwa M1), Murai K1), Takano T, Tanaka K1) { 1)Intensive & Cardiac Care Unit }	Management of Cardiorenal Syndrome in Acute Heart Failure with A-type Natriuretic Peptide Prospective Study Compared to Conventional Therapy	第71回日本循環器学会 総会・学術集会	2007 3
Kato Y, Fukuma N, Takayama M, Kato K, Ushijima A, Aisu N, Tsuchida T, Mabuchi K, Manabe H, Takano T	Wentilatory Response during Exercise is Less Affected by Chemoreflex Sensitivity in HOCM Patients with Preserved LV Systolic Function	第71回日本循環器学会 総会・学術集会	2007 3
Tajika K, Yamamoto M, Murakami D, Inami S, Seimiya K, Okamatsu K, Takano M, Ohba Takayoshi, Ibuki C, Mizuno K	Malondialdehyde-modified LDL (MDA-LDL) is a Novel Marker as Instability of Coronary Plaque: Angioscopic Analysis	第71回日本循環器学会 総会・学術集会	2007 3

学会発表

演 者、所 属	演 題 名	学 会 名	年 月
手嶋浩恵1), 酒井貴史1), 水谷行伸1), 林綾子1), 佐藤寛之1), 池野廣幸1), 草間芳樹, 新博次 {1)多摩永山中央検査室}	頸動脈エコーを用いたスティフネスパラメータ・B値の検討: 特に動脈硬化性疾患について	第74回日本医科大学医学学会総会	2006 9
小林理恵1), 野本剛史1), 水野杏一 {1)千葉北総病院中央検査室}	腎細胞ガンとの鑑別困難であった腎血管筋脂肪腫の1例	第74回日本医科大学医学学会総会	2006 9
石橋里子1), 野本剛史1), 水野杏一 {1)千葉北総病院中央検査室}	心電図検査実施時, 患者自身から得られる情報収集の重要性について	第74回日本医科大学医学学会総会	2006 9
藤木直美1), 四田千穂美1), 廣川尚美1), 相澤泰与1), 久保田久子1), 菊地英子1), 池野廣幸1), 草間芳樹, 新博次 {1)多摩永山病院中央検査室}	入浴中に記録可能なホルター心電計FM-180における検討	第74回日本医科大学医学学会総会	2006 9
木村裕子1), 野本剛史1), 水野杏一 {1)千葉北総病院中央検査室}	術前心機能精査に経胸壁心エコー図検査が有用だった1例	第74回日本医科大学医学学会総会	2006 9
宮本正章, 高木元, 太良修平, 加藤浩司, 高野仁司, 安武正弘, 高野照夫, 水野博司1), 田畑泰彦2), 小守忍3), 多川政弘4), 工藤圭介4) {1)日本医科大学付属病院美容外科・形成外科, 2)京都大学再生医科学研究所, 3)岩手大学小動物外科, 4)日本獣医生命科学大学獣医外科}	自己骨髄幹細胞及び徐放性b-FGFハイドロゲル浸透人工真皮による組織再生療法	第9回日本組織工学会	2006 9
加藤浩司1), 佐藤直樹1), 山本剛1), 岩崎雄樹1), 吉川雅智1), 田中啓治1), 高野照夫 {1)集中治療室}	軽度腎障害患者の造影剤腎症に対するシスタチンCの有用性	第10回日本心不全学会	2006 10
Nakagomi A1), Seino Y, Tokita Y1), Kodani E1), Atarashi H1), Takano T {1)多摩永山病院内科}	Metabolic syndrome increases the incidence of heart failure associated with subclinical inflammation in patients with acute coronary syndrome	第10回日本心不全学会 学術集会	2006 10
中田淳, 淀川顕司, 佐藤直樹, 山本剛, 岩崎雄樹, 平澤泰宏, 加藤浩司, 古川雅智, 神谷仁孝, 村井綱児, 田中啓治, 高野照夫1) {1)内科学第1}	慢性透析患者で大動脈狭窄が比較的短期間で進行し心不全を発症した症例	第10回日本心不全学会 学術集会	2006 10
小原賢司, 平澤泰宏, 岩崎雄樹, 村井綱児, 神谷仁孝, 吉川雅智, 加藤浩司, 山本剛, 佐藤直樹, 田中啓治, 高野照夫1), 宮内靖史1), 丸山光紀1), 谷口宏史1), 上野亮1), 岡崎玲子1), 村田広茂1), 山本哲平1), 小林義典1), 新田隆2), 他 {1)内科学第1, 2)外科学第2}	薬剤抵抗性難治性心室頻拍に対しカテーテルアブレーションおよび開胸クライオアブレーションが奏効した1例	第201回日本循環器学会 関東甲信越地方会	2006 10
稲見茂信, 宮本倫聡, 山本真功, 小川紅, 村上大介, 田近研一郎, 淀川顕司, 徳山権一, 清宮康嗣, 高野雅充, 大野則彦, 大場崇芳, 雪吹周生, 水野杏一	血漿中のCRPは黄色ブドウ球菌で吸収されるか?	第20回日本心臓血管内視鏡学会	2006 10
岡崎大武, 山本真功, 宮本倫聡, 村上大介, 田近研一郎, 徳山権一, 稲見茂信, 岡松健太郎, 清宮康嗣, 高野雅充, 大場崇芳, 横山真也1), 酒井俊太, 水野杏一 {1)千葉北総病院集中治療室}	遅発性血栓を血管内視鏡にて観察しえた2例: 血管内視鏡所見からの遅発性血栓症発症の考察	第20回日本心臓血管内視鏡学会	2006 10
岡崎大武1), 山本真功1), 宮本倫聡1), 村上大介1), 田近研一郎1), 徳山権一1), 稲見茂信1), 岡松健太郎1), 清宮康嗣1), 高野雅充1), 大場崇芳1), 横山真也, 酒井俊太1), 水野杏一1) {1)千葉北総病院内科}	遅発性血栓症を血管内視鏡にて観察しえた2例: 冠動脈エコーによる冠血流速波形での検討	第20回日本心臓血管内視鏡学会学術研究集会	2006 10

学会発表

演 者、所 属	演 題 名	学 会 名	年 月
Maruyama M, Kobayashi Y, Miyauchi Y, Yamamoto T, Murata H, Okazaki R, Ueno A, Tateoka K, Taniguchi H, Hirasa Y, Iwasaki Y, Ohara T, Yashima M, Hirayama Y, Katoh T, Takano T, Horie T1), Miyamoto S1), Tadera T1), Ino T1) { 1)Tama-nagayama Hospital }	The Differential Overdrive Pacing :A Novel Diagnostic Method of Atrial Tachycardia Irrespective of Retrograde VA Conduction	第71回日本循環器学会 総会・学術集会	2007 3
Miyauchi Y, Kobayashi Y, Horie T, Maruyama M, Iwasaki Y, Hirasawa Y, Taniguchi H, Tateoka K, Ueno A, Okazaki R, Murata H, Yamamoto T, Ohara T, Katoh T, Takano T	Electroanatomical Mapping and Catheter Ablation of Atrial Tachycardia Following Mitral Valve Surgery	第71回日本循環器学会 総会・学術集会	2007 3
Munakata R1), Nakagomi A1), Aoki A1), Shibui T1), Hosokawa Y1), Tokita Y1), Uemura R1), Takano H, Kodani E1), Asai K, Yasutake M, Kusama Y1), Takayama M, Atarashi H1), Takano T { 1)Tama-nagayama Hospital }	Peak White Blood Cell Count and Fasting Glucose are Independent Predictors of Cardiac Events in Patients with Acute Myocardial Infarction	第71回日本循環器学会 総会・学術集会	2007 3
Murakami D, Yamamoto M, Tajika K, Inami S, Okamatsu K, Seimiya K, Takano M, Ohba T, Ibuki C, Mizuno K	Incomplete Neointimal Coverage of Sirolimus-Eluting Stent 3 Months after Implantation: Evaluation by Optical Coherence Tomography	第71回日本循環器学会 総会・学術集会	2007 3
Murata H, Miyauchi Y, Kobayashi Y, Ohara T, Maruyama M, Iwasaki Y, Abe J, Hirasawa Y, Yodogawa K, Taniguchi H, Horie T, Tateoka K, Ueno A, Okazaki R, Ogano M, Yamamoto T, Katoh T, Takano T	The Incidence and Characteristics of Focal Atrial Tachycardia Resulting in Tachycardia-Induced Cardiomyopathy	第71回日本循環器学会 総会・学術集会	2007 3
Nakagomi A1), Aoki A1), Hosokawa Y1), Munakata R1), Tokita Y1), Uemura R1), Kodani E1), Yasutake M, Kusama Y1), Takayama M, Seino Y, Atarashi H1), Takano T { 1)Tama-nagayama Hospital }	Metabolic Syndrome Increases the Incidence of Heart Failure Associated with Subclinical Inflammation in Patients with Acute Coronary Syndromes	第71回日本循環器学会 総会・学術集会	2007 3
Nakagomi A1), Aoki A1), Hosokawa Y1), Munakata R1), Tokita Y1), Ishii K1), Otsuka T1), Uemura R1), Kodani E1), Ibuki C2), Kusama Y1), Atarashi H1), Takano T { 1)Tama-nagayama Hospital, 2)Chiba-hokuso Hospital }	Inflammatory Reaction Plays Significant Roles in the Pathogenesis and Instability of Vasospastic Angina	第71回日本循環器学会 総会・学術集会	2007 3
Nakagomi A1), Aoki A1), Hosokawa Y1), Munakata R1), Tokita Y1), Ishii K1), Otsuka T1), Uemura R2), Kodani E1), Ibuki C3), Kusama Y1), Atarashi H1), Takano T { 1)Tama-nagayama Hospital, 2)Chiba-hokuso Hospital }	Exercise Stress Myocardial Perfusion Scintigraphy Predicts Cardiac Events in Patients with Vasospastic Angina	第71回日本循環器学会 総会・学術集会	2007 3
Nakata J1), Sato N1), Takayama M, Tanaka K1), Takano T { 1)Intensive & Cardiac Care Unit }	Importance of Appropriate Pad Positioning of an AED	第71回日本循環器学会 総会・学術集会	2007 3

学会発表

演 者、所 属	演 題 名	学 会 名	年 月
Okada K, Kurita A1), Takase B2), Kodani E, Kusama Y, Atarashi H { 1)Sanai hospital,Hachioji, 2)National Defense Medical College Research INstitute,Division of Biomedical Engineering, }	Effects of Music Therapy on Autonomic Nerve Activities,Heart Failure Events and Plasma Proinflammatory Cytokine Levels in Elderly Patients	第71回日本循環器学会 総会・学術集会	2007 3
Okazaki R, Iwasaki Y, Miyauchi Y, Kobayashi Y, Katoh T, Takano T, Sekiguchi A1), Yamashita T1) { 1)The Cardiovascular Institute,Tokyo }	Lipopolysaccharide Induces the Down-regulation of L-type Ca2+ channel Genes in Rat Atria	第71回日本循環器学会 総会・学術集会	2007 3
Sato N1), Takayama M, Nakata J1), Takano T, Tanaka K1) { 1)Intensive and Cardiac Care Unit }	All Physicians are Reminded That an Automated External Defibrillator is not Perfect	第71回日本循環器学会 総会・学術集会	2007 3
Seino Y, Ogawa A, Yamashita T, Fukushima M, Fukumoto H, Setsuta K1), Arai M1), Takano T { 1)Department of Cardiology,Tokyo Metoropolitan Komagome Hosopital,Tokyo }	Ongoing Myocardial Damage and Cardio-Renal Burden in Patients with Hypertensive Heart Disease wtih Preserved LV Systolic Function	第71回日本循環器学会 総会・学術集会	2007 3
Setsuta K1), Arai M1), Seino Y, Takano T { 1)Department of Cardiology and Clinical Laboratory,Tokyo Metropolitan Komagome Hospital,Tokyo }	Diabetes Mellitus is Related to Development of Ongoing Myocardial Damage and Poor Prognosis in Patients with Chronic Heart Failure	第71回日本循環器学会 総会・学術集会	2007 3
Takagi G, Miyamoto M, Yasutake M, Takagi I, Takano H, Katoh K1), Tara S, Ohtubo H, Tabata Y2), Takano T { 1)Coronary Care Unit, 2)Department of Biomaterials,Institute for Frontier Medical Sciences,Kyoto }	Protein Therapy Using Control-Released b-FGF in Patients with Ischemic Limbs:a Possible Alternative to Bone Marrow Mononuclear Cell Implantation	第71回日本循環器学会 総会・学術集会	2007 3
Takahashi N, Yamamoto A1), Zyu CanZ, Tezuka S, Hanaoka D, Iwamoto M, Ishikawa M, Abe junko, Takenaga K, Amitani K, Yamaguchi T, Kawaguchi N, Uchida T, Munakata K { 1)department of radiology }	The reiationship between left ventricular Systolic Dyssynchrony and wall stress in Patients with Hhypertension and Preserves Ejection Fraction	第71回日本循環器学会 総会・学術集会	2007 3
Takayama M, Kitamura M, Yoshikawa M1), Kawashima S, Yamamoto T1), Fujita N, Fujimoto H, Takahashi Y, Yamamoto E, Takagi G, Ohno T, Aoki S, Asai K, Takano T { 1)CCU&ICU }	Favorable Occurrence of Procedure Related PTSMA Complication in Consecutive 100 Cases:NMS Single Center Experience	第71回日本循環器学会 総会・学術集会	2007 3
Tokita Y, Kusama Y, Munakata R, Fukushima M, Matsumoto S, Satoh W, Uemura R, Kodani E, Tadera T, Nakagomi A, Atarashi H	Utility of Rapid D-dimmer Measurement for Screening of Superacute Phase of Acute Coronary Syndrome in Emergency Setting	第71回日本循環器学会 総会・学術集会	2007 3
Uemura R, Atarashi H	Bone Marrow Stem Cells Directly Promote Cell Survial Signaling in Ischemic Heart	第71回日本循環器学会 総会・学術集会	2007 3

学会発表

演 者、所 属	演 題 名	学 会 名	年 月
Ueno A, Kobayashi Y, Murata H, Yamamoto T, Okazaki R, Tateoka K, Taniguchi H, Horie T, Abe J, Hirasawa Y, Yodogawa K, Iwasaki Y, Maruyama M, Miyauchi Y, Ohara T, Katoh T, Takano T	A Prospective Study on the Risk Stratification for Patients with Non-sustained Ventricular Tachycardia Using a Novel Algorithm	第71回日本循環器学会 総会・学術集会	2007 3
Yamamoto M, Murakami D, Tajika K, Tokuyama K, Inami S, Seimiya K, Takano M, Ohba T, Ibuki C, Mizuno K	Angioscopic Differences in Neointimal Coverage and in Thrombus Persistence between Sirolimus-Eluting Stent and Bare Metal Stent after a 6-month implantation	第71回日本循環器学会 総会・学術集会	2007 3
Yamamoto M1), Okamatsu K1), Yokoyama S, Inami S1), Takano M1), Seimiya K1), Ohba T1), Tokuyama K1), Tajika K1), Hata N, Mizuno K1) {1)Cardiovascular Center, Chiba Hokusoh Hospital}	Delayed Neointimal Coverage of Sirolimus-Eluting Stents and Lesion Characteristics - A Study with Serial Coronary Angioscopy -	第71回日本循環器学会 総会・学術集会	2007 3
Yamamoto T1), Murai K1), Kamiya M1), Yoshikawa M1), Kato K1), Hirasawa Y1), Iwasaki Yu-ki1), Sato N1), Tanaka K1), Tajim H2), Takano T {1)Intensive and Cardiac Care Unit, 2)Department of Radiology}	Thrombolysis with a Novel Modified t-PA, Monteplease, in Combination with Catheter Intervention for High-risk Patients with Acute Pulmonary Embolism	第71回日本循環器学会 総会・学術集会	2007 3
Yodogawa K1), Seino Y, Ohara T, Takayama H, Ohno N1), Ibuki C1), Kobayashi Y, Mizuno K1), Katoh T, Takano T {1)Chiba-Hokusoh Hospital}	Therapeutic Monitoring of Corticosteroids in Patients with Cardiac Sarcoidosis: Application of Signal Averaged Electrocardiography	第71回日本循環器学会 総会・学術集会	2007 3
Kamiya M, Sato N, Yamamoto T, Iwasaki Y, Hirasawa Y, Kato K, Yoshikawa M, Murai K, Takano T1), Tanaka T {1)内科学第1}	Management of cardiorenal syndrome in acute heart failure with A-type natriuretic peptide-prospective study compared to conventional therapy.	第71回日本循環器学会 総会・学術集会	2007 3
2005年度追加分一般講演			
Takagi I, Takagi G, Yasutake M, Takano H, Katoh K, Miyamoto M, Takano T	Improvement of Endothelial Dysfunction Indicated Early Phase Recovery after Bone Marrow Vascular Regenerative Therapy in Human	第70回記念日本循環器 学会学術集会	2006 3

編集後記

平成 19 年度は、高野照夫先生から水野杏一先生への主任教授交代から始まりました。付属病院、各派遣病院での医師不足は相変わらず続いており、今年度 9 名の新入医局員（千駄木 7 名、武蔵小杉 2 名）を迎えられたとはいうものの、新研修医制度導入以前の状態に復するには、まだまだ時間がかかりそうです。来年度も、主任教授の交代に影響されることなく、8 名（千駄木 7 名、武蔵小杉 1 名）の入局希望がきております。これは、一人一人を大切に指導する第一内科の伝統の賜物であり、先輩方に感謝するばかりです。我々には、行政に対して「余計なことをしないで！」と願いつつ、この地道な努力を続けて行くしかないようです。

今年度は、受賞の多い年でもありました。とくに、奥村英正名誉教授の瑞宝小綬章受勲、宮本正章准教授の“ウジ虫治療”の東京都ベンチャー大賞受賞、研修医野崎文華さん（来年度入局予定）の日本循環器学会関東甲信越地方会の第 1 回 YIA 賞受賞は、（少なくとも戦後の第一内科の歴史では）初めての出来事であり、第一内科の勢いが感じられ、喜ばしいかぎりです。

今回の編集に際して気になったことは、OB の先生方からの原稿が少なかった点です。このことは、げんてん会幹事会でも指摘され、関連病院からの原稿も載せた方がよいというご提案も頂きました。来年度のげんてん誌の原稿は、“時間と空間のバランス”を大切にし、昭和 30 年代、40 年代、50 年代卒の先生方、あるいは、卒後 25 周年、50 周年の先生方、派遣病院だけでなく日本全国津々浦々で御活躍の先生方に、原稿を依頼いたしたいと考えております。その節は、ご協力宜しくお願い申し上げます。

最後に、ご多忙にもかかわらず原稿をお寄せ下さいました先生方、原稿の整理をしてくれた秘書の吉田伸子さんをはじめ多くの方々に心よりお礼申し上げます。

平成 19 年 12 月 18 日

第一内科医局長

安武正弘